

平成 27 年度 豊岡市環境報告書
コウノトリと暮らす豊岡の環境



▲三江小学校グラウンドに降り立ったコウノトリ（平成 27 年 6 月 撮影）

平成 28 年 10 月
豊岡市コウノトリ共生部コウノトリ共生課

******* 目 次 *******

第1部 豊岡市環境基本計画と環境報告書について（P1～3）

第2部 「目標とする姿」への取り組み状況（P4～26）

第3部 豊岡市の環境の状況（P27～35）

第4部 市の取り組み実績（P36～50）

第5部 前年度環境審議会意見の反映状況(市の取り組み)（P51～55）

**第6部 平成27年度の環境に関する取り組みについて
豊岡市環境審議会の意見(P56～60)**

第1部 豊岡市環境基本計画と環境報告書について

■豊岡市環境基本計画について

環境基本計画の体系図は、次頁のとおりです。計画の基本理念・基本方針をもとに、10年後に到達すべき10個の「目標とする姿」を描き、それを実現するための具体的な方向性と行動指針を定めています。

■環境報告書について

この「豊岡市環境報告書」は、「豊岡市コウノトリと共に生きるまちづくりのための環境基本条例」に基づき、毎年、環境の状況や計画の取り組み状況等について、豊岡市環境審議会の意見を付して公表するものです。

10個の「目標とする姿」への達成状況を、それぞれ「もっとがんばろう」・「この調子でがんばろう」・「よくがんばりました」の3段階で評価します。

豊岡市環境基本計画の体系

■基本理念(第3章) 計画を進めるにあたっての基本的な考え方は次のとおり。

- 1 豊岡に住み、豊岡を訪れるすべての者が当たり前のこととして、人とコウノトリが共に生きるまちにふさわしい行動をとります。
- 2 良好な環境は先人から受け継いだものであることを認識し、次の世代に引き継ぎます。
- 3 地域ごとに異なる環境に応じ、地域の個性を生かして取り組みます。

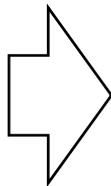
私たちは、次の6つの合言葉をいつも
気にしながら行動します。

「もったいない」「ちょっとでも」「ばちがあたる」
「心地よい」「つなぐ」「自信・誇り」

■基本方針(第3章)

基本理念をもとに、みんなで取り組みを進めるための基本方針。

- 1 自然・文化・歴史的資源の理解と保全
- 2 人と生きものがバランスよく共生するまちづくり
- 3 資源の無駄遣いをなくす循環型のまちづくり
- 4 環境意識を高める環境にやさしい人づくり
- 5 環境行動を持続的にする取り組み
- 6 地球環境の保全に貢献



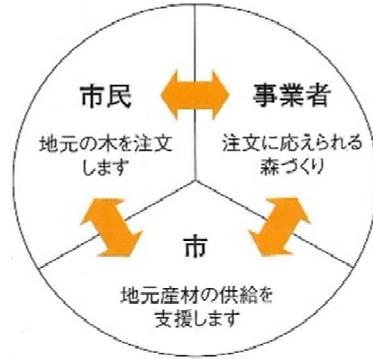
■目標とする姿(第1章)

長期的な視点のもと、みんなで取り組みを進めて10年後に到達すべき目標像。

- 1 里山では山の幸もよみがえりました
- 2 遊んでいる田んぼを見かけなくなりました
- 3 あちこちの川で子どもたちが遊んでいます
- 4 ごみのない海辺では、子どもたちが「磯遊び」を楽しんでいます
- 5 子どもたちが地域の祭りや行事を楽しんでいます
- 6 コウノトリがすべての中学校区に住んでいます
- 7 収集されるごみの量は、ピーク時に比べ25%減りました
- 8 子どもが安心して道草をしながら帰ります
- 9 たくさんの豊岡ブランドが生まれ、市民みんなが使っています
- 10 市民みんなが、省エネ行動を楽しみながら取り組んでいます

注) 豊岡市環境基本計画は、平成19年度から10年間の計画です。
「目標とする姿」は、平成29年度の豊岡市の姿を想定しています。

取り組みの方向(下記)に掲げる一つひとつの課題に関して、市民、事業者、市が連携してみんなで取り組む。
【例】 地元の木を使った家、ものづくり



■取り組みの方向(第4章)

「目標とする姿」を実現するため、市民・事業者と市が、みんなで協力して取り組みを進めていく方向を示す。

- 1 森林を保全し、活用します
- 2 川や海などの水辺環境を保全します
- 3 農業を将来にわたって維持します
- 4 生きものがバランス良く生息する自然環境を保全します
- 5 地域の文化や景観を保存し、活用します
- 6 ごみの減量・再資源化を進めます
- 7 地域力を高めます
- 8 地域から学ぶ学習・教育を進めます
- 9 環境意識を高めます
- 10 環境に関する知の集積を図ります
- 11 地産地消を進めます
- 12 環境と経済の共鳴を進めます
- 13 省エネルギーに努め、新エネルギーの利用を図ります
- 14 公害を防止します(大気汚染、騒音、悪臭、振動、土壌汚染、光害など)

■市民・事業者・市のそれぞれの取り組み

市民、事業者、市のそれぞれの具体的な取り組みを行動指針として示す。

- 1 市民(来訪者)の取り組み
- 2 事業者の取り組み
- 3 市の取り組み

【来訪者に求めること】
 来訪者にも豊岡に滞在中は、市民等と同様に、環境を良くするための行動を求めます。

第2部 「目標とする姿」への取り組み状況

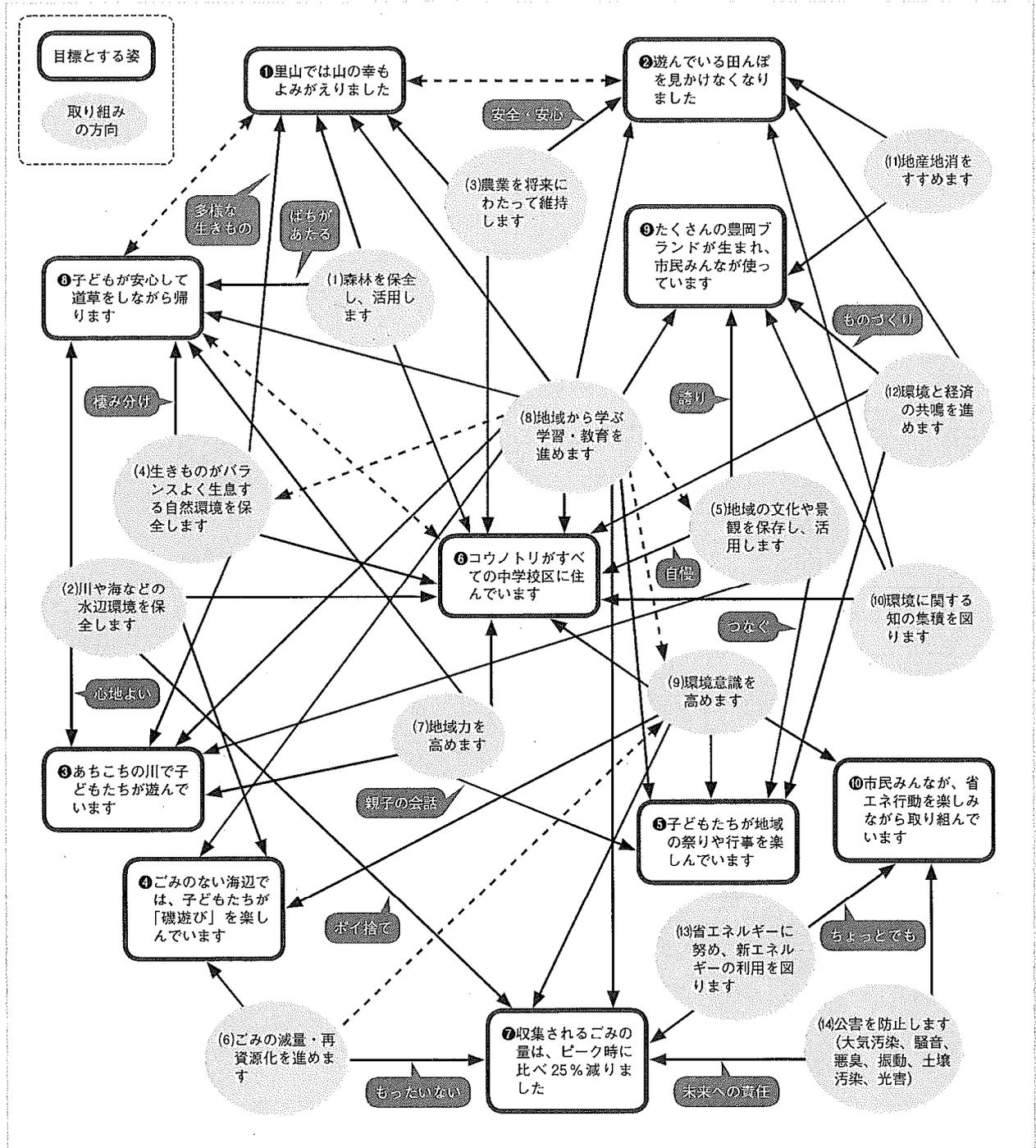
■取り組み状況について

「目標とする姿」一つひとつについて、平成27年度を含む「主な指標の変化」（平成19年度～）と27年度の特徴的なトピックを掲載し、現時点での取り組み状況の評価を行っています。

■目標像に向けた取り組みの方向

10個の「目標とする姿」と、それを実現するための14個の「取り組みの方向」の相関関係を表す展開図は下記のとおりです（環境基本計画P78「資料編」資料1参照）。

一つの行動が、いくつもの目標像実現につながっています。



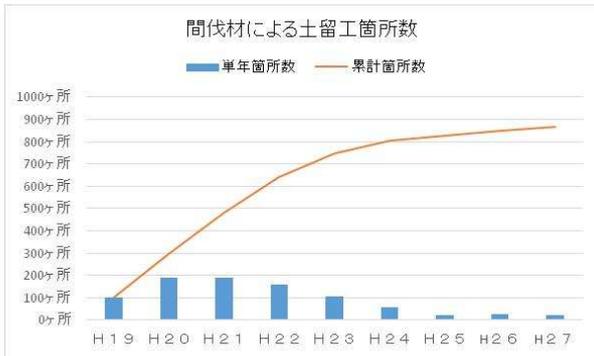
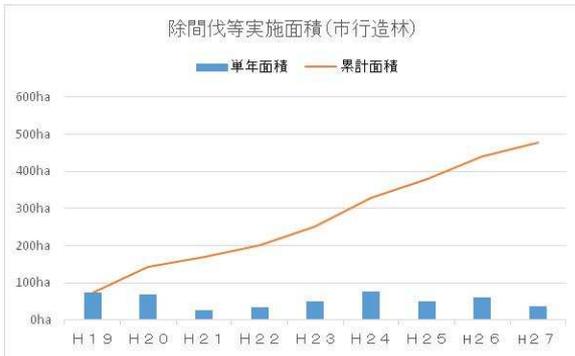
目標像 01 「里山では山の幸もよみがえりました」

【具体イメージ】 木材が燃料としても利用されるようになりまし
 した／山菜やマツタケがたくさん採れるようになりまし
 有害鳥獣が人里近くに出て来なくなりました

【実現するための主な取り組み方向】 方向 01 森林を保全
 し、活用します／方向 04 生きものがバランス良く生息す
 る自然環境を保全します

1 主な指標の変化（平成 19～27 年度）

（1）里山での間伐等の状況



【解説】

- ・うっそうと茂った里山に光を入れるための「除間伐（じょかんばつ）」と、間伐材（かんばつざい）の有効利用を進めています。
- ・間伐材をそのまま地すべり防止に活用する「土留工（どどめこう）」もその一つです。また、搬出してペレットを製造し自然エネルギーとして利活用もしています。

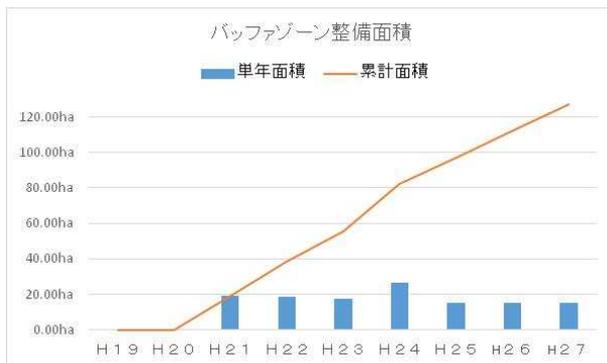
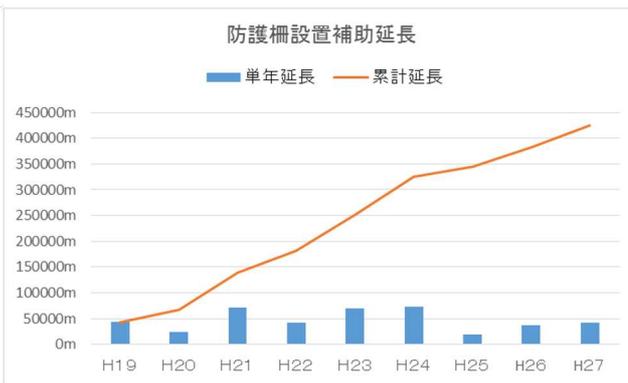
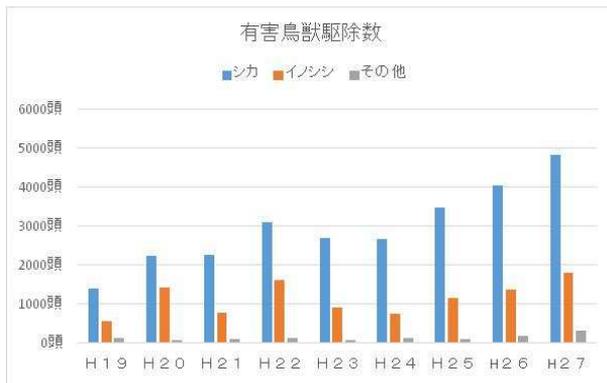
（2）燃料用ペレット等としての間伐材利用



【解説】

- ・市の施設（市役所、学校、公民館等）へのペレットストーブ導入に続き、温泉施設等にもペレットボイラーの設置を進め、終了しました。
- ・間伐材をはじめ木材利用の一つとして、木質ペレットの製造と消費拡大を進めてきましたが、平成 27 年度の豊岡産ペレット製造量が昨年と比べ減少しています。これは、ペレットの使用コストに比べ灯油価格の方が安価であったため、一部の温泉施設でペレットの使用が控えられたことが原因と考えられます。今回のように、ペレットの使用については、灯油価格など他の燃料の市場価格に影響を受けます。
- ・住宅用ペレットストーブ補助件数については、事業所など法人を含む総件数です。

(3) 有害獣への対応



【解説】

- 市では引き続き、シカ有害被害撲滅大作戦を展開しており、平成 27 年度年間捕獲目標 6,500 頭（県提示目標 6,308 頭）【平成 26～28 年度】としており、平成 27 年度も 7,293 頭と年間捕獲目標をクリアしています。左上の有害鳥獣駆除数のグラフは、有害鳥獣駆除のみの数値であり、11 月から翌年 3 月までの狩猟期に個人が捕獲したのものについては、含まれていません。



特定外来生物駆除、待たなし！

生態系を守るため、外来生物駆除に取り組む団体が市内でも活動しています。

神鍋山野草を愛でる会では、環境省の特定外来生物に指定されているオオキンケイギクを駆除するため、会員たちが神鍋山頂付近で群生の 3,000 株を抜き取る作業を行いました。

また、加陽湿地まつりや地域の環境学習などでも、アメリカザリガニやミシシippアカミミガメについて学ぶ場を設けるなど、啓発活動を行っています。



(加陽湿地まつりでのザリガニ釣り)



(国道 312 号沿いのオオキンケイギク)

2 平成 27 年度評価

- 住宅用ペレットストーブ、薪ストーブの設置に対する補助制度が浸透し、伸びているが、豊岡産ペレット製造量は減少している。
- 有害獣対策では、捕獲専任班の取組みが着実に効果を上げており、シカについては年間捕獲目標頭数をクリアしている。

もっと
がんばろう

目標像 02 「遊んでいる田んぼを見かけなくなりました」

【具体イメージ】 農薬や化学肥料に頼らない農業が広がっ

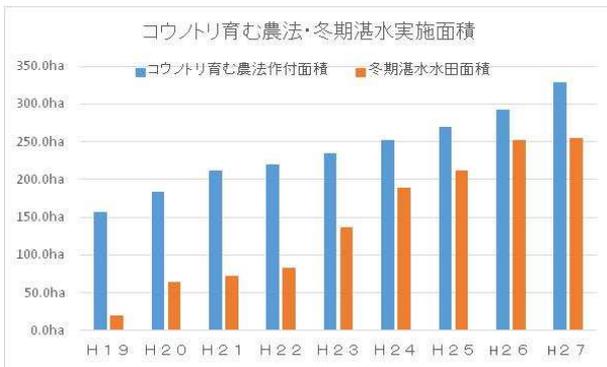
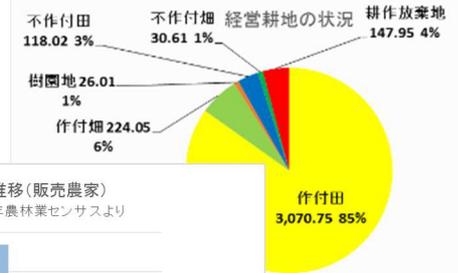
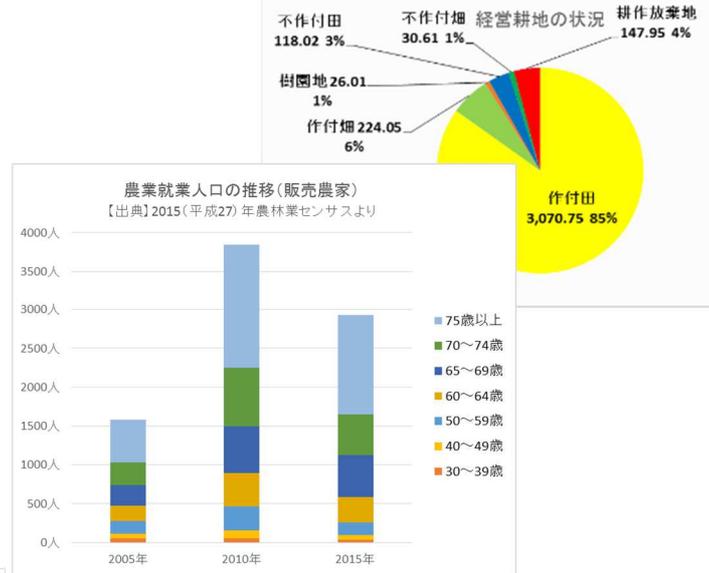
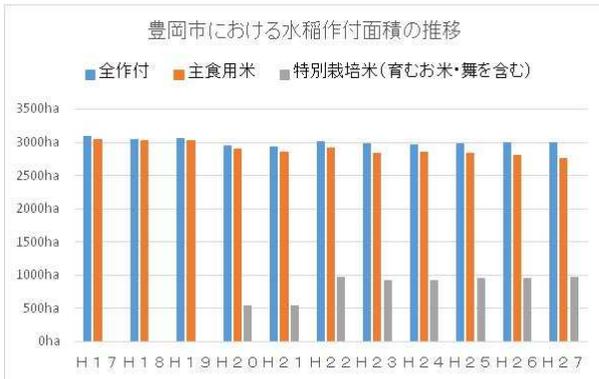
ています／就農者が増え、地産地消が進んでいます／農地がビオトープや燃料作物など様々な用途に活用されています

【実現するための主な取り組み方向】 方向 03 農業を将来にわたって維持します／方向 11 地産地消を進めます／方向 12 環境と経済の共鳴を進めます

1 主な指標の変化（平成 19～27 年度）

※H19 特別栽培米は不明

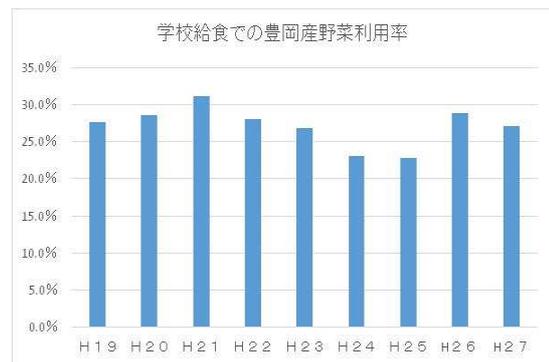
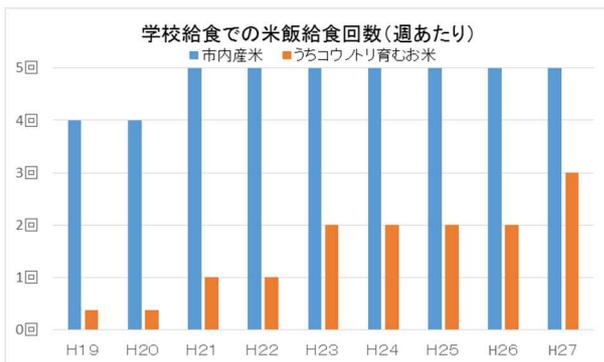
(1) 豊岡の農業の現状



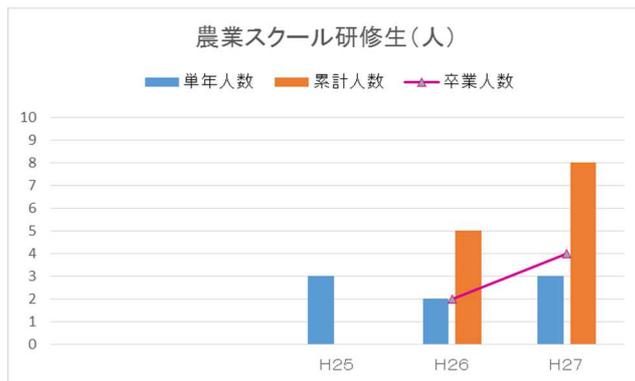
【解説】

- ・水稲作付面積のうち、「特別栽培米」の面積が一定の割合を占めるようになりました。
- ・「コウノトリ育む農法」をシンボルに、「豊岡型環境創造型農業」（農薬 50%以上・化学肥料 50%以上減）を、平成 33 年に全耕作面積の 51%（過半数）にすることを目標に、新たな栽培方策を導入するなどして、普及拡大を図っています（平成 27 年度末 34%）。
- ・就農者の高齢化・減少が進む中で大規模集約化の方向にあり、認定農業者や集落営農組織、農業法人等の数が少しずつ増加しています。

(2) 学校給食への利用



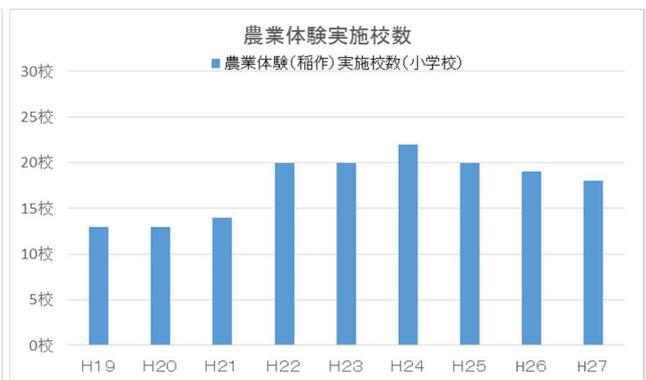
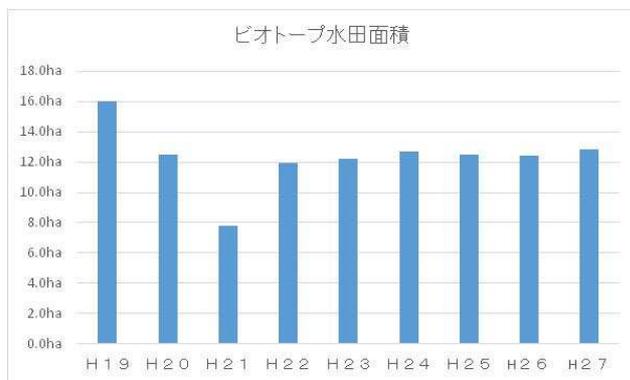
(3) 農業スクール研修生



【解説】

- ・(前頁) 地域の農地を守る意味からも、地元産米、地元産野菜の学校給食への利用を進めています。
- ・お米については「毎日地元の米飯給食」「うち3日はコウノトリ育むお米」になりました。
- ・(左) 平成25年度に新規就農希望者が、就農に必要な農業生産技術と経営管理能力を習得できるように「豊岡農業スクール」を開校しました(研修期間:1年※更新により最長3年間)。卒業生は雇用就農、独立自営就農とそれぞれ市内で就農しています。
- ・(下) 休耕田の利活用策として、多様な生きものを育む「ビオトープ水田」としての管理委託を行っており、環境学習フィールドとしても活用しています。

(4) 休耕田の利活用



放棄田をビオトープに!



日高町伊府地内では、11月28日(土)に住民らが放棄田を活用したビオトープづくりを行いました。土起こしや水面を覆っていた草を除去するなどの整備を行いました。

また、下宮地内でも地元有志の会が、放棄田(休耕田)を活用したビオトープづくりを行いました。長年耕作放棄された田んぼを湿地状にし、多様な水辺の生きものを復活させてコウノトリの餌場に供する、併せて水田景観も復元させました。有志の会では、いずれはコウノトリが飛来する地域にしていきたいという思いがあります。

地元住民の地道な取り組みによって、放棄田をかつての湿地にしてコウノトリが飛来する環境が整備され、またこうした取り組みが広がっていくことを期待します。



(日高町伊府でのビオトープづくり)

2 平成27年度評価

- ・環境創造型農業は継続的に拡大している。
- ・週あたりの学校給食での米飯給食回数も増えている。



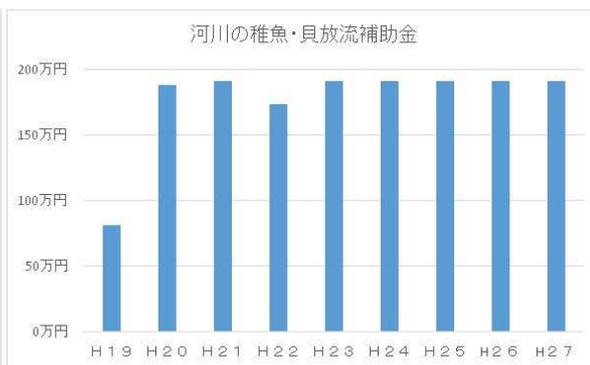
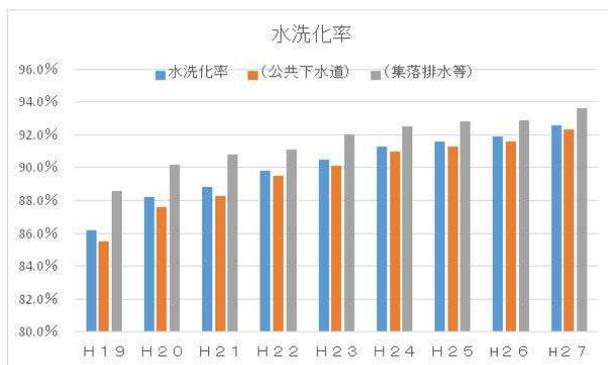
目標像 03 「あちこちの川で子どもたちが遊んでいます」

【具体イメージ】 川のごみを見かけなくなりました／水質が改善し、川にはたくさんの魚が泳いでいます／子どもたちがきれいな川で魚とり、水遊びをしています

【実現するための主な取り組み方向】 方向 02 川や海などの水辺環境を保全します／方向 08 地域から学ぶ学習・教育を進めます

1 主な指標の変化（平成 19～27 年度）

（1）川的环境保全



【解説】

- ・河川の水質浄化につながる「水洗化率」は、95%を目標に毎年少しずつ向上しています。
- ・水産資源保全を主目的に漁業協同組合が稚魚や貝の放流を継続的に行っており、行政としても補助を行っています。

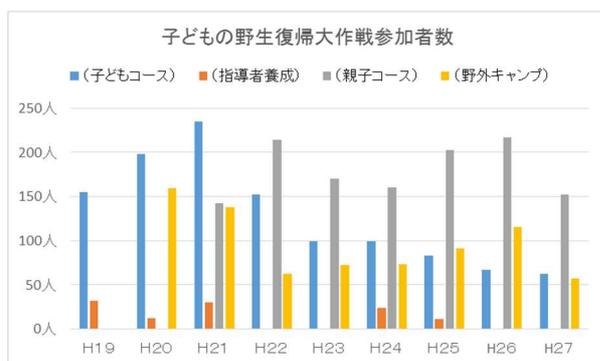


【解説】

- ・平成 27 年度の防止看板設置・配布数が減少していますが、これは不法投棄多発箇所への設置が、ひと通り終了したためです。
- ・これまで、不法投棄を減らすための対策を講じていますが、状況は中々改善しません。しかし、今後もしっかりとした対応で臨みます（奥野田渡峠付近での様子）。

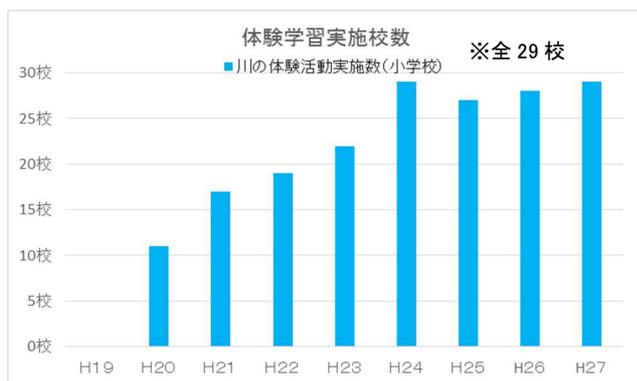


（2）学習フィールドとしての利用



【解説】

- ・子どもたちに自然体験を促す「子どもの野生復帰大作戦」においても、川は重要なフィールドです。
- ・近年の参加総数が減少したと感じるのは、運営上平成 22 年度から定員が設けられたためで、子どもの数が減る中であって、コウノトリ野生復帰のまち・豊岡らしい事業として定着しています。



【解説】

- 平成 19 年度から兵庫県下で「環境体験学習」（小学校 3 年生対象）が導入されたこともあり、授業で自然体験が取り入れられています。川の体験活動も、多くの小学校で行われています。

★トピックス!

川と親しむイベント続々と！

竹野ふるさと創生協会は「第 24 回川に親しむつどい」を 7 月 12 日（日）に竹野川で開催しました。参加者は水中宝さがしや〇×クイズ、カヌー遊び、魚のつかみ取りなどを楽しみながら川に親しんでいました。参加者にとって、いつまでも美しい川であるように、川で遊びながら、水を汚さない暮らしのあり方について考えるよいきっかけになりました。

また、六方川を考える会は、六方川に親しんでもらうため、「生き物観察会」を 7 月 19 日（日）に六方川で開催しました。参加者はタモ網や箱メガネを使って川の中の魚や貝、草花などの生き物を観察したり、川舟で川下りをしながら川の上から生き物を観察したりしました。



(竹野川での「川に親しむつどい」)

川遊びとヤマメのつかみ取り！

福住小学校 2 年生の学 P 活動では、7 月 5 日（日）に出石町奥山の一輪亭に集合し、みんなで「ふるさと紙芝居の会」の方の紙芝居（地元奥山区の民話『おさよつばき』など）を楽しく見ました。

その後、一輪亭の前の奥山川で、大はしゃぎしながら網でヤマメを追い、石の陰に隠れるヤマメをつかみ取りしました。その場で塩焼きにして食べ、残すことなく美味しくいただきました。元気いっぱいの学 P 活動でした。



(福住小学校での学 P 活動)

2 平成 27 年度評価

- 様々な団体や地域、小学校などでも、子どもたちが川に親しむイベントや活動が行われ、定着している。

この調子で
がんばろう

目標像 04 「ごみのない海辺では、

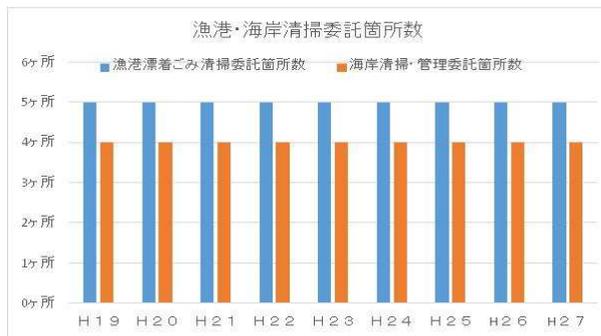
子どもたちが『磯遊び』を楽しんでいます」

【具体イメージ】 ポイ捨てや不法投棄のごみや、草刈後の草、稲わらなどが台風や大雨のあとも海岸に漂着しなくなりまして／きれいな海岸で、子どもたちが砂遊びや磯遊びを楽しんでいます

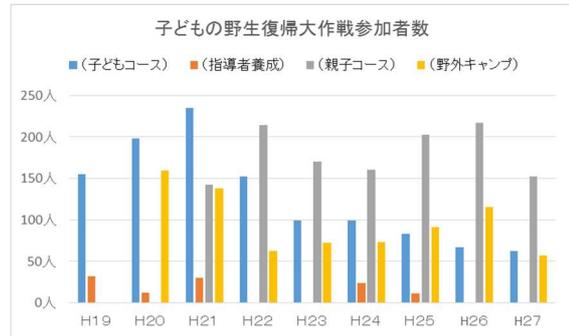
【実現するための主な取り組み方向】 方向 02 川や海などの水辺環境を保全します／方向 08 地域から学ぶ学習・教育を進めます

1 主な指標の変化（平成 19～27 年度）

（1）海辺の環境保全



（2）学習フィールドとしての利用



（再掲）

【解説】

- ・（上）子どもの野生復帰大作戦、小学校の環境体験事業（3年生）、自然学校（5年生）などでも、竹野スノーケルセンターや円山川公苑での体験が組み込まれています。

★トピックス！

地域ぐるみで浜を清掃！

港中学校の生徒や校区内の園児、小学生、地元住民ら約 550 人が 7 月 4 日（土）に気比の浜周辺で、清掃活動を行いました。10 日（金）の海開きを前にした地域の恒例行事です。流木や海草などを拾い集め、用意したごみ袋 1,000 袋をほとんど使い切りました。

30 年以上続いており、同中学生徒会が中心となって企画しました。円山川河口付近の浜のため、上流から流れ着くごみも多く、数年前から、清掃に合わせて啓発ポスターなどを作って、上流域に配っています。

清掃はエリアを 7 か所に区切って行い、参加者たちは熊手などを使ってごみを集めて袋に入れ、藻などはあっという間に回収されました。ガラスやプラスチック容器のふたなど、燃えないごみもありました。



（気比の浜周辺での清掃活動）

2 平成 27 年度評価

- ・海岸を清掃するボランティア活動は、各地で継続的に行われている。
- ・大雨のあとは、川から流れてきたごみや海外から流れてくるたくさんの漂着物が海岸を覆っている。

もっと
がんばろう

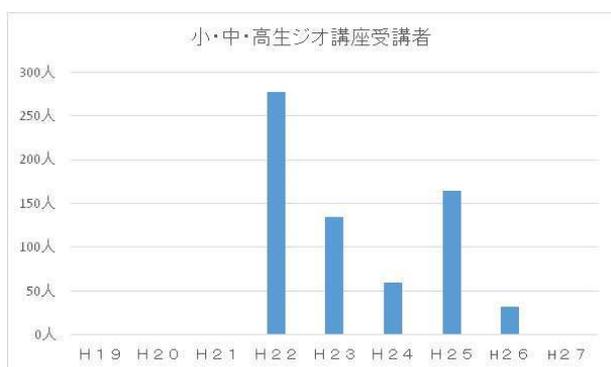
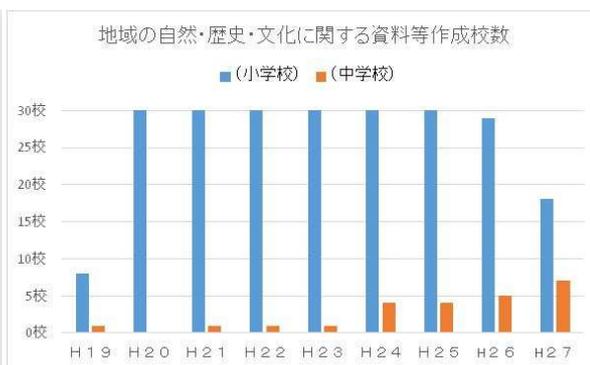
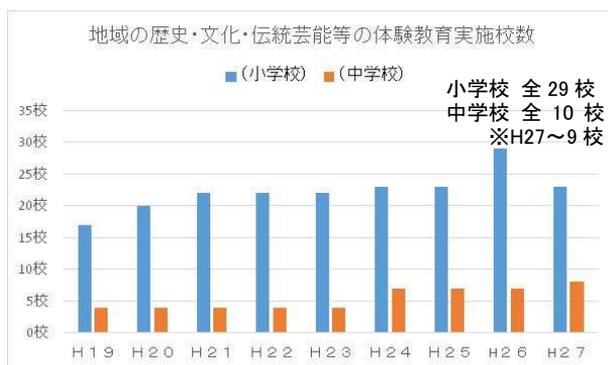
目標像 05 「子どもたちが地域の祭りや行事を楽しんでいます」

【具体イメージ】おじいちゃんやおばあちゃんが、祭りや伝統行事を語り継いでいます／祭りや伝統行事が地域の暮らしから生まれたものであることを知っています／子どもたちは、地域の文化や歴史に関心を持ち、誇りに感じています

【実現するための主な取り組み方向】方向 05 地域の文化や景観を保存し、活用します／方向 07 地域力を高めます／方向 08 地域から学ぶ学習・教育を進めます

1 主な指標の変化（平成 19～27 年度）

（1）地域を学ぶ機会



【解説】

- ・「地域の中で受け継がれてきた時間や空間を感じる」「地域に誇りを持つ」など伝統行事やお祭りには大切な意味合いが含まれています。
- ・特に学校教育の中では、“地域を知る”という視点で、かなり意識して地域の歴史・文化・伝統芸能等の体験教育に取り組まれていると言えます。

★トピックス!

田植え前の風物詩！

田植えが始まる前の 4 月 29 日、雷神社では、氏子の佐野・上佐野・納屋区が中心となり、その年の豊作を祈願する、お田植え祭が毎年行われます。

女代神社宮司により、役員、宮当番で玉串を奉納し、氏子が神前のいずみ桜の枝を授かり、円陣をつくります。続いて、烏帽子、白装束の牛使い役が、輪の中で田すきを持って土をならすしぐさを繰り返した後、全員で歌を歌いながら、葉をちぎり一節ごとに投げ込みます。

「とんとんとんぎす、おんのが咲いて、おんのはとるな・・・」という枕詞は野花を大切にすれば、三つ葉が咲いて四つ葉になり、若葉がすくすくと育って豊かな大地になるという意味が込められています。豊岡市無形文化財にも指定されています。



【豊岡の民俗芸能・その他の伝統行事一覧】 出典：但馬民俗芸能応援隊※資料（H26.2）から転載

※一部情報を変更しています。

※但馬の民俗芸能・伝統行事を後世に守り伝えるため、復活・継承を支援することを目的に平成16年に発足した自主的な住民活動団体。

《民俗芸能》

	名称	伝承地	開催日	備考
1	法花寺万歳	法花寺	1月3日、祝い事、随時	県指定重要無形文化財
2	如布神楽	但東町中山 如布神社	2月3日、10月10日	
3	雷神社の御田植祭	佐野・上佐野・納屋 雷神社	4月29日	市指定無形民俗文化財 追儺行事 H19に40年ぶりに復活
4	轟の太鼓踊り	竹野町轟 蓮華寺	8月14日	県指定重要無形民俗文化財 孟蘭盆施餓鬼
5	そうだろ節とヤチャ節	日高町西気地区	8月14日、15日	市指定無形民俗文化財
6	柳まつりおはやし	市内 小田井神社	8月1日、2日	
7	べろべろ節・松坂節	市内	8月14～16日	
8	来日のヤーチャ踊り	城崎町来日	8月14～16日、23日	
9	氣比の祭文踊	氣比	8月14日、15日	
10	轟大神楽	竹野町轟 森神社	10月第2日曜日	市指定無形民俗文化財
11	日吉太神楽	山王町 日吉神社	10月第2日曜日	
12	井田神社太神楽	日高町鶴岡 城山	10月第2日曜日	
13	盾縫神社太神楽	日高町鶴岡 保木	10月第2日曜日	
14	奥藤太刀振り	但東町奥藤 奥宮神社・須賀神社	10月第2日曜日	
15	赤野太刀振り	但東町中山 赤野神社	10月体育の日の前日	
16	ささ囃し(太鼓踊)	但東町虫生 安牟加神社	10月第2日曜日	農村歌舞伎舞台は県指定有形民俗文化財 市指定無形民俗文化財
17	大名行列槍振り	出石町内町 路上	11月3日	市指定無形民俗文化財
18	奈佐節(六条さん)	奈佐地区	随時	市指定無形民俗文化財
19	氣多神社神楽	日高町上ノ郷 氣多神社		
20	久畑三番叟	但東町久畑	活動中絶状態	
21	小田井太神楽	小田井町	活動休止状態	
22	宇日神社の三番叟	竹野町竹野 宇日神社	活動中絶状態	衣装・面・鼓・鈴が残っている
23	京成さん	竹野町森本	活動中絶状態	
24	角力取り踊り	但東町平田 春日神社		
25	百合の獅子舞	出石町百合	活動中絶状態	
26	森尾盆踊り	森尾	8月	
27	田結の六斎念仏	田結	活動中絶状態	
28	竹野相撲甚句	竹野町竹野 鷹野神社	活動中絶状態	
29	久斗文楽	日高町久斗	活動中絶状態	

《その他の伝統行事》

	名称	伝承地	開催日	備考
30	宵田十日えびす	日高町宵田 西宮神社	1月10日	
31	田ノ口の賽の神祭	日高町田ノ口 集落内	成人の日	市指定無形民俗文化財

32	但馬天満宮祭	但東町奥矢根 天満宮	2月3日	
33	京口庚申まつり	京口	2月3日	
34	赤石千本杵餅つき	赤石 兵主神社	2月17日	
35	出石初午	出石町内	3月第3土曜前後3日間	
36	松岡の御柱祭	日高町松岡	4月14日	市指定無形民俗文化財
37	赤花鬼子母神大祭	但東町赤花 法華寺	4月第3土、日曜日	
38	赤花大師祭り	但東町赤花	4月21日	
39	温泉祭り 古典行列・稚児行列	城崎町内	4月23日、24日	
40	絹巻神社の奉納相撲	気比 絹巻神社 子ども奉納巫女さん踊り	4月28日	
41	幟まわし	出石町宮内 出石神社	5月5日	市指定無形民俗文化財 端午の節句
42	田結お千度参り	田結 八坂神社	5月23日	
43	鼻かけ地蔵祭	城崎町楽々浦 鼻かけ地蔵	6月第1日曜日	
44	女代神社の茅の輪くぐり	九日市上町 女代神社	6月30日、12月31日	
45	久斗こども奉納相撲	日高町久斗 石龍神社	7月7日	
46	甚五郎万灯	出石町伊豆	8月24日に近い日曜日	
47	愛宕の火祭り	出石町中村 伊福部神社	8月24日に近い日曜日	
48	伊豆八朔のえんたびきの綱づくり	出石町伊豆	8月31日、9月1日	H9年より35年ぶり復活
49	今森放生会の子ども相撲	今森 八坂神社	9月15日	
50	豊岡のだんじり	市内各地	10月15日に近い土日	秋祭り
51	ジジババオコシ	中郷	10月体育の日の後最初の土曜日	
52	日出神社の千本もちつき	但東町畑山 日出神社	10月体育の日の前日	
53	城崎の秋祭りだんじり	城崎町内 四所神社	10月14日、15日	
54	出石の喧嘩だんじり	出石町大手前広場	10月15日に近い日曜日	
55	出石神社の奉納相撲	出石町宮内 出石神社	10月20日	
56	野の大注連縄替え行事	日高町野 北山神社		H9年11月16日新調、30年ごとに新調
57	江本千本杵餅搗き	江本 佐田彦神社	11月23日	
58	出石神社御年花祭り	出石町宮内 出石神社	11月23日	
59	来日の千本じき	城崎町来日		
60	荒木の地蔵盆盛り物作り	出石町荒木		
61	坊岡の万灯会	竹野町坊岡		
62	下塚の万灯祭り	竹野町下塚		
63	三開相撲	大篠岡 三開山城	活動中絶状態	

2 平成27年度評価

- ・地区公民館では、地域の協力のもと、祭りや行事を楽しむことができる教室や講座などを実施している。
- ・後継者の不足により、伝統行事の継続が難しくなっている。

**もっと
がんばろう**

目標像 06 「コウノトリがすべての中学校区に住んでいます」

【具体イメージ】コウノトリ育む農法や市民が造った湿地が

広がりました／ドジョウ、カエル、バッタなどの生きものがたくさんいます／コウノトリが市内各地に舞い降りています

【実現するための主な取り組み方向】方向 03 農業を将来にわたって維持します／方向 04 生きものがバランス良く生息する自然環境を保全します／方向 08 地域から学ぶ学習・教育を進めます

1 主な指標の変化（平成 19～27 年度）

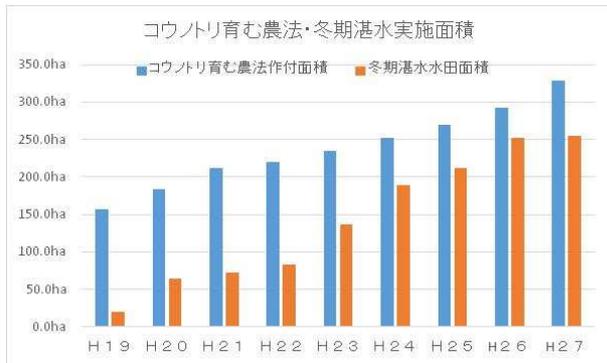
（1）野外のコウノトリの状況（各年度末数値）



【解説】

- ・平成 17 年の試験放鳥から、野外のコウノトリの自然繁殖も進み、個体数は順調に増加しています。
- ・コウノトリは、すべての中学校区に飛来し、その姿を見ることができます。
- ・ただ、港・竹野（平成 27 年度森本統合）の 2 中学校区には人工巣塔がなく、また但東中学校区、日高西中学校区では人工巣塔はあるものの営巣していません。
- ・野生復帰したコウノトリは、市内のみならず全国各地を訪れています。平成 27 年 12 月には、初めて沖縄で確認されました。
- ・野外のコウノトリは、1 年以上所在が確認できない場合は羽数から除いています（平成 26 年度～）。

（2）コウノトリが生息できる環境の整備



【解説】

- ・コウノトリは小動物をエサとする大食漢の鳥。増え続けるコウノトリが生息できるように、市内全域に生きものを増やす取組みを広げようとしています。

平成 27 年度 小学校区別ビオトープ水田設置状況（単位：a）

地域	小学校	面積	地域	小学校	面積	
豊岡地域	豊岡	0.0(0.0)	日高地域	府中	0.0(0.0)	
	八条	0.0(9.08)		八代	28.6(28.6)	
	田鶴野	62.2(77.9)		日高	18.1(18.1)	
	三江	61.3(49.98)		静修	0.0(0.0)	
	五荘	225.4(215.51)		三方	62.2(62.2)	
	新田	0.0(0.0)		清滝	19.1(19.1)	
	中筋	14.7(14.7)		出石地域	弘道	0.0(0.0)
	奈佐	116.5(116.5)			福住	0.0(0.0)
	港東	5.2(5.2)			寺坂	0.0(0.0)
	港西	0.0(0.0)			小坂	0.0(0.0)
	神美	219.3(198.44)	小野	50.9(64.5)		
城崎地域	城崎	0.0(0.0)	但東地域	合橋	362.6(339.03)	
竹野地域	竹野	20.2(20.2)		高橋	0.0(0.0)	
	中竹野	0.0(0.0)	資母	22.1(0.0)		
	竹野南	0.0(0.0)				

【解説】

- ・(上) 小グループで身近な自然を再生する「小さな自然再生」活動(ビオトープづくり、外来雑草等の除去など)を支援しています。

《平成 27 年度利用団体》

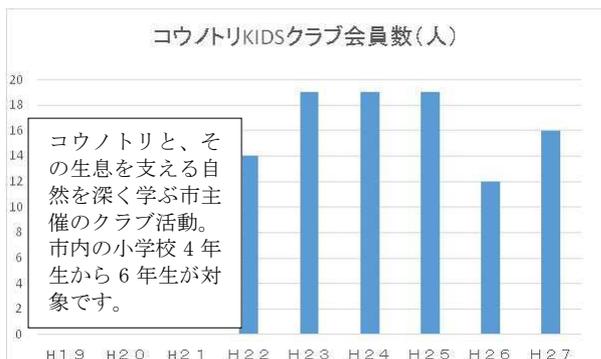
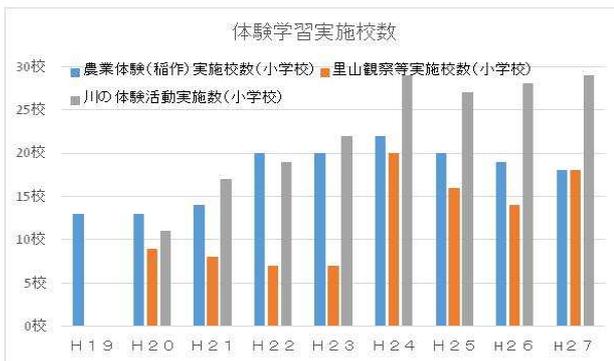
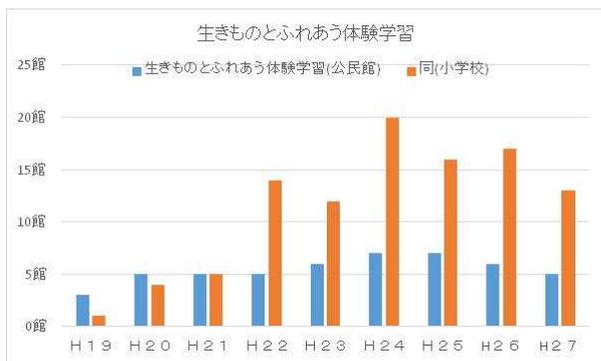
谷山川を育む会・まもり隊「谷山川における生物多様性保全活動」、ビオトープ八条「八条地区（九日市）の放棄田のビオトープ化活動」など。

※()は平成 26 年度面積

※市内全校区を目標に、ご協力いただける農家の方にビオトープ（生きものが住む場所）水田としての管理委託を行っています。

※八条ビオトープについては、平成 27 年度は刈取ったセイタカアワダチソウの搬出のみを実施しました（本格整備は平成 28 年度予定）。

(3) 学び



コウノトリと、その生息を支える自然を深く学ぶ市主催のクラブ活動。市内の小学校4年生から6年生が対象です。

【解説】

- ・コウノトリという象徴的な鳥が近くにいることで、環境への学びはより実感を伴い、深められています。
- ・自然環境について学ぶ機会はさまざまな形で増加してきました。
- ・小学校区ごとに一定規模のビオトープ水田の設置を進めており(前頁)、学校と連携して生きもの調査の授業にも活用しています。

★トピックス!

コウノトリ放鳥から10年、その広がりは各地へ!

平成17年9月のコウノトリの放鳥から10年が経ちました。この間、身近にコウノトリがいる暮らしを営んできた地域の皆さんと、情報を共有するとともに、野生復帰の取組みを持続するための意見等を出し合うことを目的に、市は、県立コウノトリの郷公園、県立大学大学院と茶話会を開催しました。茶話会は、ヒナが巣立った人工巣塔の建つ区で順次行い、参加した住民からは「コウノトリがきて環境が良くなった。コウノトリがいないとおかしいと考える」などの意見があり、コウノトリが身近な存在となったことを感じました。

茶話会を通して、コウノトリ野生復帰の取組みを周知し、持続させていくことが重要であることを再確認しました。

また、今年度は千葉県野田市、福井県越前市、更には韓国でもコウノトリの放鳥が行われ、野生復帰の取組みは国内はもとより海外にも広まりつつあります。



(9月3日、韓国禮山郡での放鳥の様子)

2 平成27年度評価

- ・コウノトリ育む農法・冬期湛水など、生息環境の整備がより一層進んでいる。
- ・小さな自然再生活動が大きく増えている。

よくがんばりました

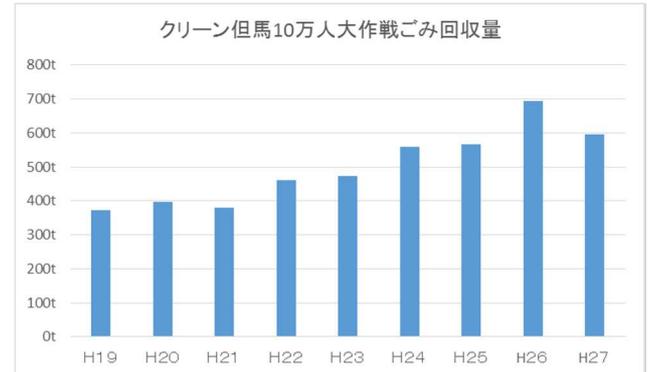
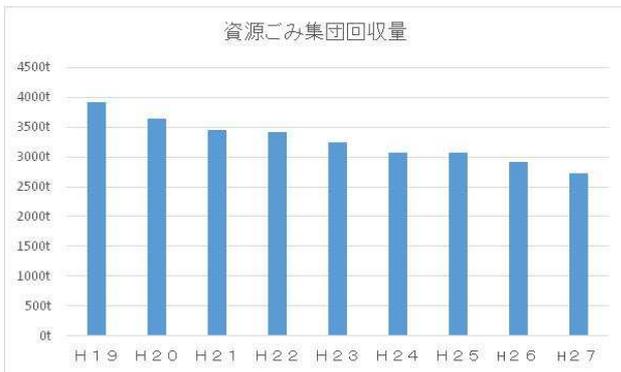
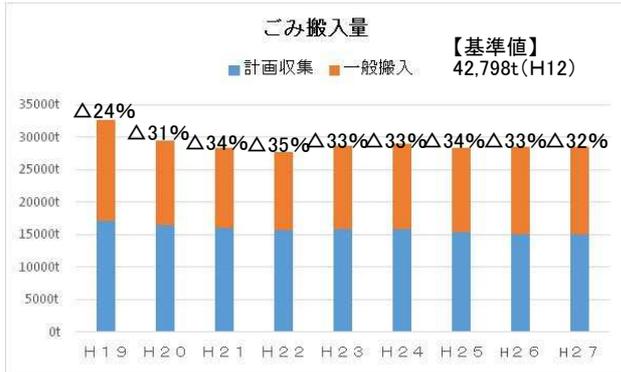
目標像 07 「収集されるごみの量は、ピーク時に比べ 25%減りました」

【具体イメージ】 日常生活を見直し、資源の無駄遣いをしなくなりました／生ごみは堆肥などに、使用済みの食用油は燃料として利用されています／事業者は、ゼロエミッションの取組みを進めています

【実現するための主な取り組み方向】 方向 06 ごみの減量・再資源化を進めます／方向 09 環境意識を高めます

1 主な指標の変化（平成 19～27 年度）

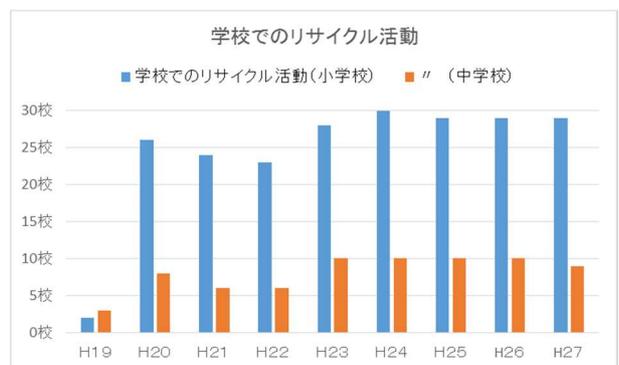
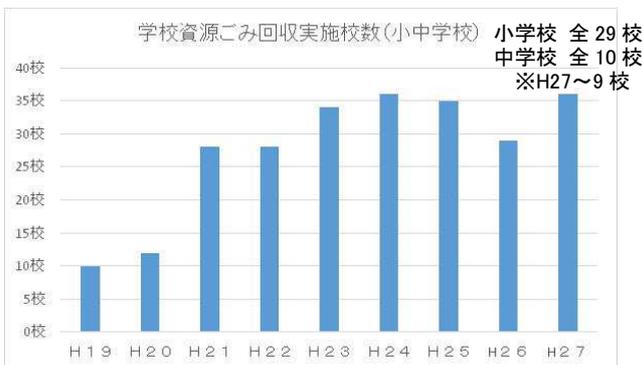
（1）清掃センターへの搬入状況等



【解説】

- ・ピーク時（平成 12 年度）からの 25%減は既に平成 20 年度に達成していますが、1 人あたりのごみ排出量は平成 22 年度を底値に微増傾向にあります。人口減少に対し世帯数は増加していることと、各商店での過包装などが原因に挙げられます。

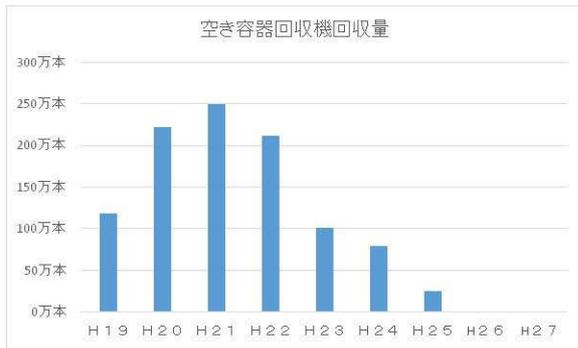
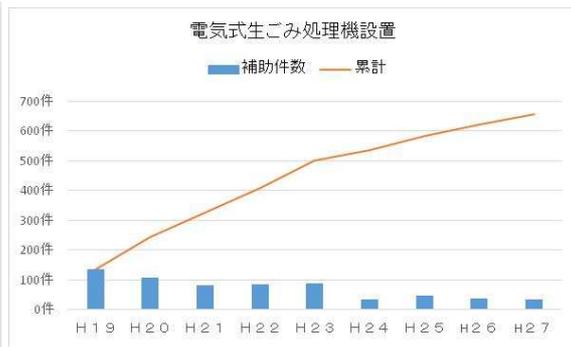
（2）学校での取り組み



【解説】

- ・(左)小中学校では、プルタブやインクカートリッジなどの資源ごみ回収に取り組んでいます。
- ・(右)P T Aや地域と連携した資源回収活動も定着しています。市からの補助金等を含め、学校活動の資金源であることも大きなモチベーションになっているものと考えられます。

(3) ごみ減量に向けた多様な取り組み



【解説】

- ・ビニールハウス等の農業用廃プラスチックは、毎年持ち寄って集団処理が行われています。
- ・市が規定する以上の分別回収を自主的に行っている地域もあります。
- ・空き缶や空きペットボトルの容器回収機は老朽化や管理が困難になったことにより、設置されなくなりました。ただ、今後北但ごみ処理施設などで啓発・環境学習用として復活する可能性があります。

★トピックス!

ますます活発、高校生の環境活動！

市では、平成 28 年 4 月からのごみの分別方法の変更を周知するため、映像を作成しました。その際、豊岡総合高等学校インターアクトクラブの生徒の皆さんがボランティアとして出演し、分別方法の周知・啓発に協力しました。

同校のインターアクトクラブでは、その他の環境に関わる活動にも熱心に取り組んでいます。7 月 24 日（金）には、近年、市内でもその繁殖に悩まされている、外来雑草「ダンドボロギク」の除去作業を田結湿地にて行いました。



(ごみの分別方法変更啓発DVD)



(田結湿地でのダンドボロギク除去作業)

2 平成 27 年度評価

- ・平成 27 年度は対平成 12 年比△32%で目標達成しているが、1 人あたりのごみ量が増えている。
- ・集団回収の回収量は減っている。

もっと
がんばろう

目標像 08 「子どもが安心して道草をしながら帰ります」

【具体イメージ】 学校からの帰り道で花飾りを作ったり、魚とり、虫取りをしています／子どもが自然のことを学び、生きものに興味を持っています／通学途中に、散歩する人、商売で行き来する人、農作業をする人がたくさんいて、無意識に子どもたちの見守りが行われています

【実現するための主な取り組み方向】 方向 04 生きものがバランス良く生息する自然環境を保全します
／ 方向 07 地域力を高めます

1 主な指標の変化（平成 19～27 年度）

（1）学校登下校時の見守り

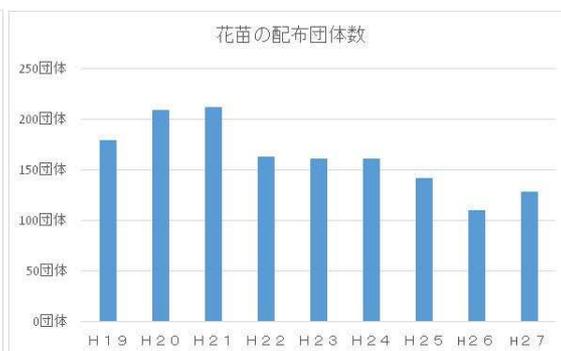
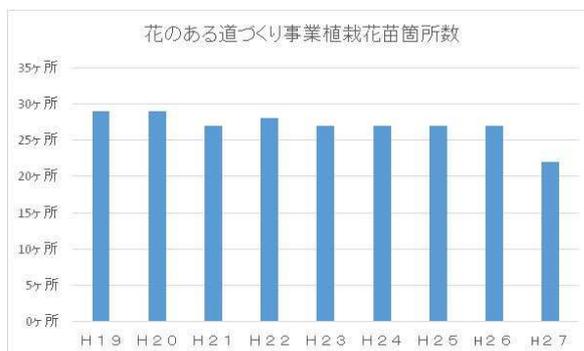
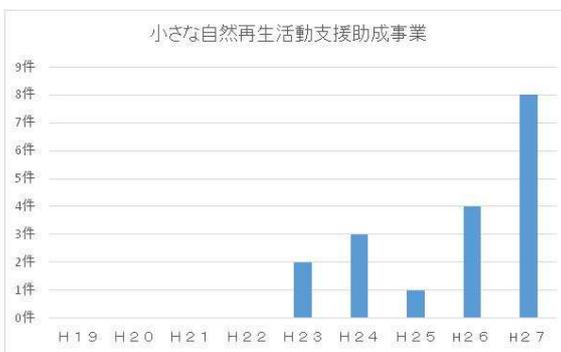
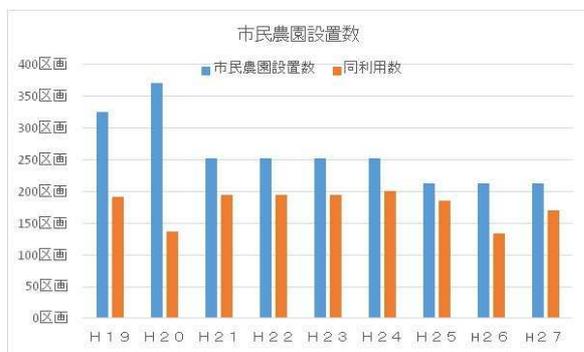


小学校下校時の見守りの様子。登校時は全校区で実施。下校時は校区による（写真は佐野区での様子）。

【解説】

- ・子どもたちの安全な通学を確保するため、各小学校に設置された「まちづくり防犯グループ」を中心に見守りが行われています。
- ・通学路に咲く草花について教えてもらう様子などは、子どもたちが地域に支えられて育つ姿を象徴的に表しています。
- ・ただ、見守りの使命はあくまで「安全な登下校」であり、「安心して道草をしながら帰る」という目標とは相容れない部分もあります。

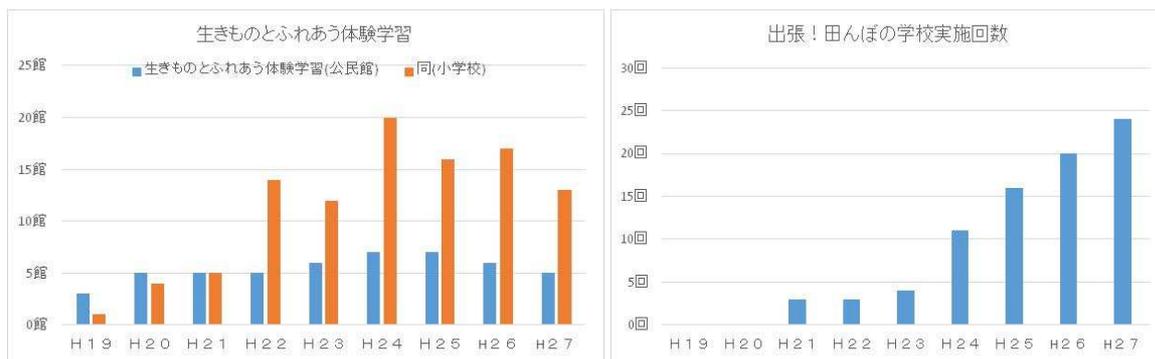
（2）道草環境の保全



【解説】

- ・これらは道草へ誘うことを目的とした取り組みではありませんが、通学路が花にあふれ、生きものにあふれ、いつも畑に人影があるような場所なら、地域の大人と子どもが顔見知りになり、ちょっと寄り道しても安心できます。

(3) 地域の自然環境への興味



【解説】

- まず、身のまわりにある環境が面白い！と思うことがスタート。コウノトリ文化館でイベントとして開催されている「田んぼの学校」の地域出張バージョン「出張！田んぼの学校」の回数が増加してきました。

★トピックス！

加陽湿地まつりで三世代交流！

円山川の支川・出石川が流れる加陽地区では、国土交通省の自然再生事業により大規模湿地が整備され、地域と一体となった賑わいの拠点づくりが進められています。

8月2日（日）には、昨年に引き続き加陽湿地まつりが開催されました。オープニングでは、恒例となっている三世代交流ラジオ体操が行われました。地域みんなが顔見知りとなり、声を掛け合う、あたたかいコミュニティーづくりを目指しています。

その他、生きもの調査やスタンプラリー、外来種駆除の啓発としてのザリガニ釣りなど、子どもから高齢者まで、楽しみながら川や湿地とふれあいました。



(加陽湿地まつりでの三世代交流ラジオ体操)



(加陽湿地まつりでのザリガニ釣り)

2 平成 27 年度評価

- 登下校時の見守り活動が各小学校区で定着し、世代を超えた交流を育んでいる。
- 出張！田んぼの学校など、子どもたちが自然のことを学ぶ機会が順調に増えている。

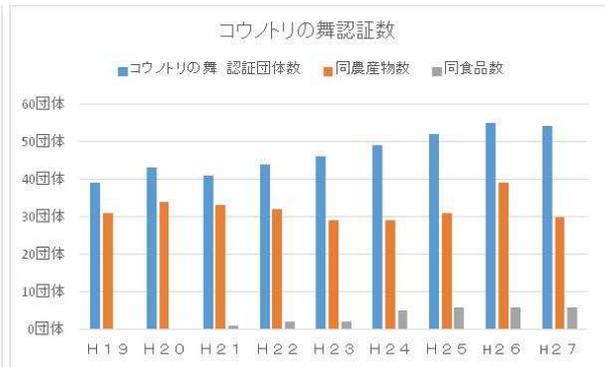
この調子で
がんばろう

目標像 09 「たくさんの豊岡ブランドが生まれ、 市民みんなが使っています」

【具体イメージ】 豊岡で作られた安全・安心な農産物、かばん、ちりめんなどの商品が市内外で高く評価されています／市民が豊岡産品を購入し、日々の暮らしを楽しんでいます／市外の消費者は、豊岡の人が選ぶ物を購入することに安心を感じています

【実現するための主な取り組み方向】 方向 08 地域から学ぶ学習・教育を進めます／方向 11 地産地消を進めます／方向 12 環境と経済の共鳴を進めます

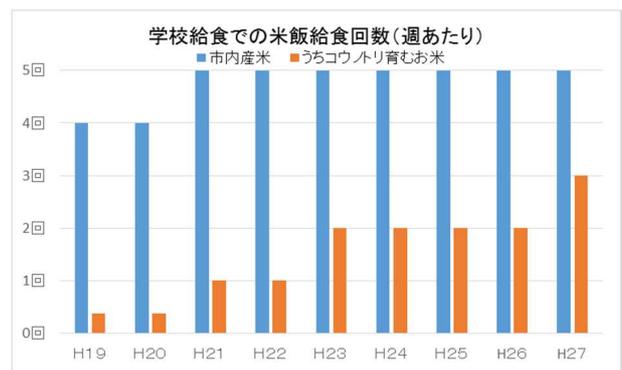
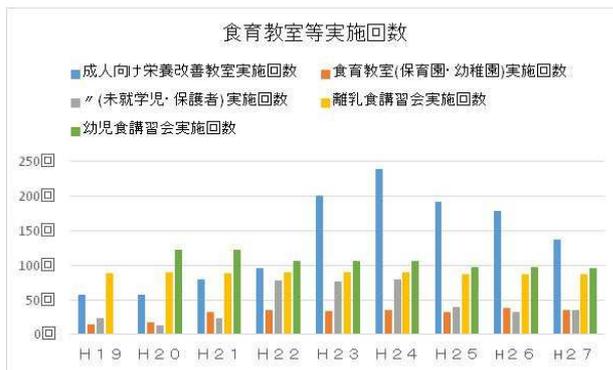
1 主な指標の変化（平成 19～27 年度） （1）豊岡ブランドの育成



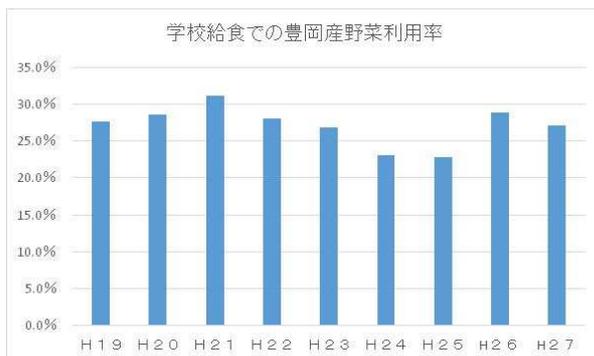
【解説】

- ・豊岡靴や出石皿そば、但東の卵かけごはんなど「豊岡ブランド」はたくさんありますが、ここでは経年変化のわかる農産品を紹介しています。
- ・「物語のある商品」として、トップセールスや地道な販売促進の努力を続け、コウノトリ育むお米は東京や沖縄の量販店など、全国約 500 店舗で扱われています（実際把握している約 500 店舗から、拡がりを見せていますが、正式な店舗数は確認できていません）。

（2）地産地消の推進

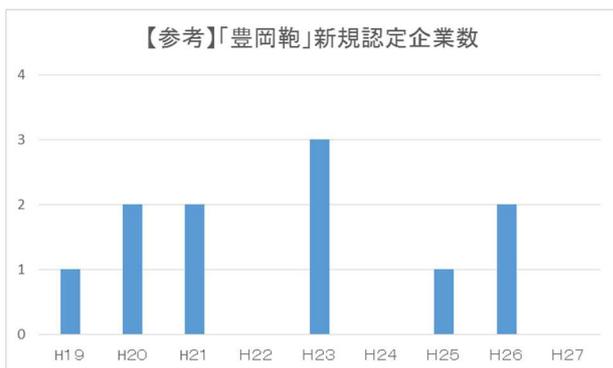
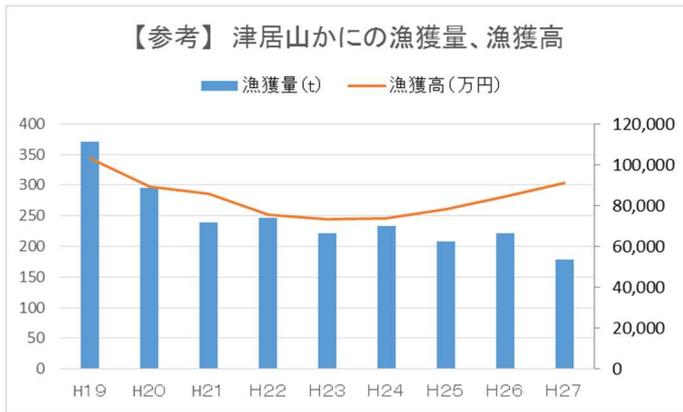


(再掲)



【解説】

- ・いわゆる外向きに「豊岡ブランド」と呼ばれるものだけでなく、地元で採れたものを食べ、地元で作られたものを使う「地産地消」を広げようとしています。



【解説】

- ・「津居山港機船底曳網組合」では、毎年市内の小・中学校にセコガニを提供し、給食時に児童にカニの食べ方を教える取り組みを行っています。

★トピックス!

ますます浸透、「コウノトリ育むお米」!

平成21年度から市内の小・中学校の給食が米飯給食になり、平成27年度、学校給食でコウノトリ育むお米の使用を週2回から3回に増やしました。各家庭で「今日の給食はコウノトリ育むお米のご飯だったよ」「うちでも買ってよ」という会話のやりとりが自然と増えていくことを期待します。

また、コウノトリ育むお米の海外市場での安定的な販路を開拓し、ブランド力の向上を図ります。豊岡のブランド力が海外でも向上していくことを願います。



(三江小学校での米飯給食の様子)

やっぱり、「かばんのまち」豊岡!

豊岡市の特産品かばんの出荷額が、市区町村別で国内1位であることが経済産業省の調査で分かりました。「国内最大の産地」とされていましたが、これまでかばんのみの統計はなく、名実ともに日本一に。地域団体指標「豊岡靴」でさらなるブランド化を進めています。

同省の工業統計で、最新となる2013年の統計を詳しく調べた結果、豊岡市のかばん出荷額が101億9720万円で1位となりました。2位の東京都足立区とは約6300万円の差です。ちなみに2013年の革製品かばんなどの項目で、豊岡市は6位でした。



2 平成27年度評価

- ・首都圏や京阪神、また海外での「コウノトリ育むお米」の販売促進やインターネット販売も行われている。
- ・学校給食での米飯給食は既に定着しており、豊岡産野菜利用についても意識されている。

この調子で
がんばろう

目標像 10 「市民みんなが、省エネ行動を楽しみながら取り組んでいます」

【具体イメージ】 地球温暖化防止の意識が高まり、化石燃料の使用を減らす行動が広がりました／冷暖房や電気機器のスイッチをこまめに切るようになりました／太陽電池の設置やアイドリングストップが進んでいます

【実現するための主な取り組み方向】 方向 09 環境意識を高めます／方向 13 省エネルギーに努め、新エネルギーの利用を図ります

1 主な指標の変化（平成 19～27 年度）

（1）市民が楽しく



【解説】

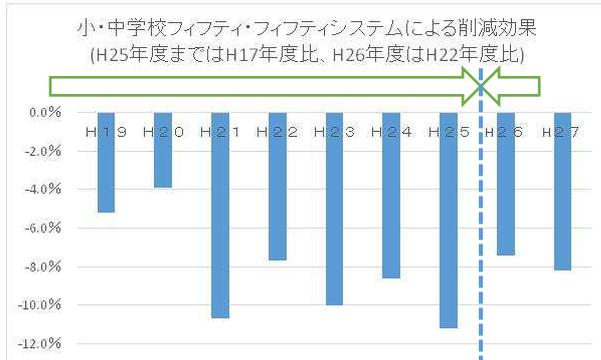
○市民エコポイント

市民の皆さんが環境行動を行うとポイントを付与します。10ポイントで「市民エコポイント抽選会」に参加できます。

- 市民エコポイント抽選会参加人数

第1回	472人
第2回	480人
第3回	296人
第4回	907人
第5回	928人
第6回	624人
第7回	1,442人
第8回	2,893人

・「市民エコポイント制度」と「健康ポイント制度」が統合され、「健康・環境ポイント制度」を、平成27年4月から新たにスタートしました。これまで健康一辺倒だった方の興味が環境へも向けられるなど、利用者の相乗効果の広がりが期待されています。



【解説】

・環境教育の一環として、H18.4から市内の全小・中学校に「ファイフティ・フィフティシステム」を導入しています。これは、光熱費（電気代）の節減分の1/2を学校に還元し、1/2を市に返還することで省エネを促すものです。

・学校への還元額は年総額300万円以上。各学校で希望する物品が購入されています。

（2）企業の経済活動の中で

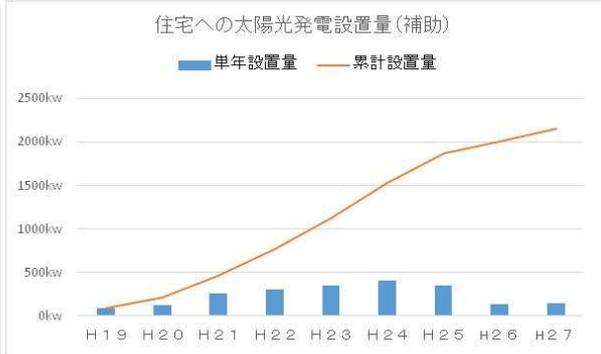
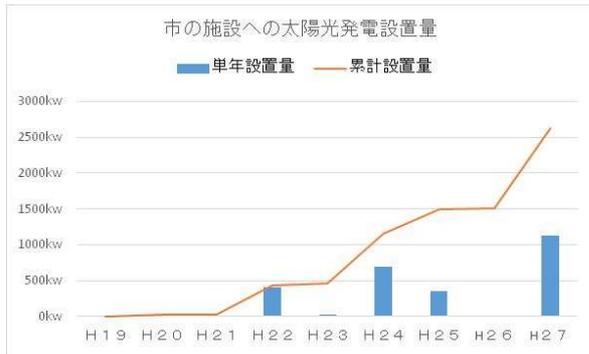


【解説】

・環境と経済の共鳴を促進するための補助事業は、「環境経済事業推進補助（平成18～21年）」「技術革新等支援補助（平成22～24年）」「ものづくり企業等支援補助（平成25年～）」と変遷しながら継続しています。

・国に同様に補助制度ができたこともあり、平成25年度は補助件数・金額とも大幅にダウンしました。

(3) 自然エネルギーの利用



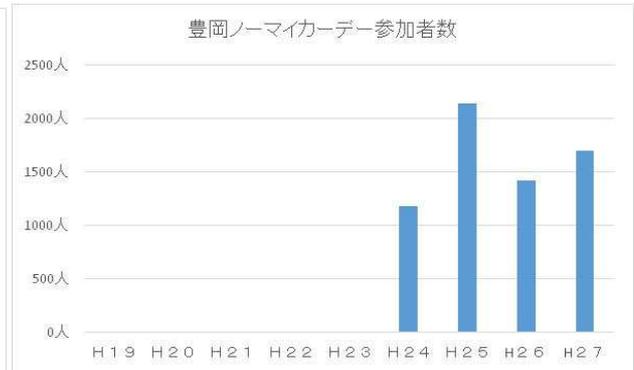
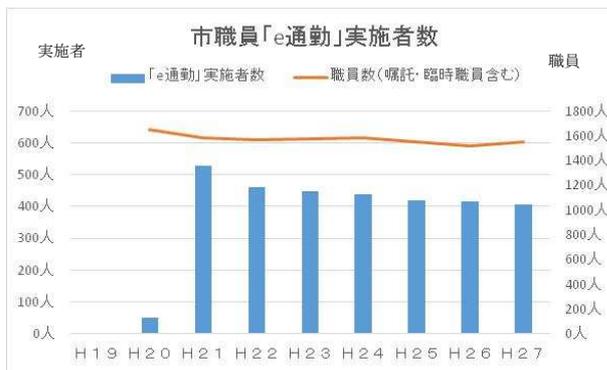
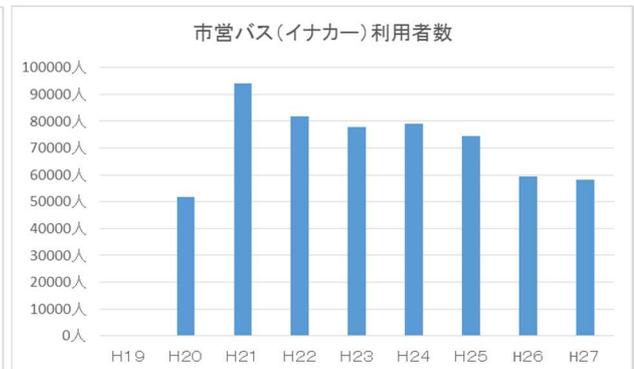
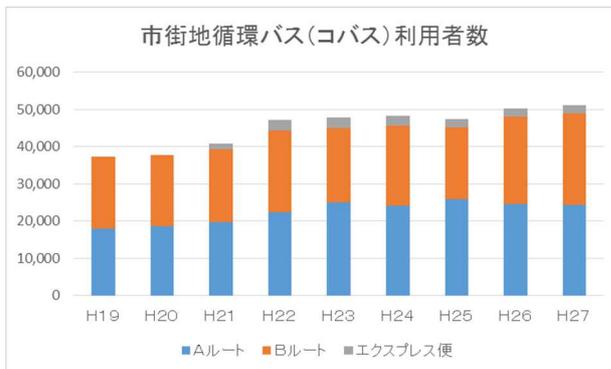
(再掲)

(再掲)

【解説】

- 市は、自然エネルギーの利用を推進しています。ペレットストーブや薪ストーブを使用することは、省エネにもなり、山の資源の活用にも寄与することにつながります。

(4) 公共交通の利用



豊岡らしい暮らし方を提案することにより、地球温暖化防止を進めています！

★トピックス★

中筋地区では、子どもたちが地元で採れる旬の食材を食べる「旬の会」を開催しています。子どもたちは、自分たちの住む地域の豊かさと集う楽しさを感じるとともに「地域環境を考えること」「伝承」などを学んでいます。旬の会を体験した子どもたちによるワーキングでは「給食で地元野菜が食べたい」と意見が出てきました。その意見を受け、給食への地元野菜導入に向けて地元の企業と行政で、雪を使った冷蔵庫“雪室”の実証実験を行っています。



自然に学ぶ暮らしをテーマに環境学習を進めています！

小学校6年生の国語の教科書の筆者でもある、東北大学石田秀輝名誉教授による、地球環境問題と身近な生物が持っているテクノロジーについての授業を、市内小学校6校278人に対して行っていただきました。

日常何気なく暮らしている自然環境についても学び、環境について深く考えることができました。



(三方小学校での授業の様子)

2 平成27年度評価

- ・「e通勤」の取組みや市街地循環バスの利用は定着しつつある。
- ・“雪室”の実証実験など新しい自然エネルギーへの取組みが徐々に増えている。

この調子で
がんばろう

第3部 豊岡市の環境の状況

■環境の状況について

豊岡市の環境に関するさまざまなデータとその経年変化を整理しています。

1. 自然

(1) 気象の状況

年次	気温 (°C)			湿度 (%)	降水量 (mm)	最深積雪 (cm)	霧日数 (日)	猛暑日 (日)
	平均	最高極	最低極					
平成 12 年	14.5	39.3	-3.7	79	1,955	48	88	23
13 年	14.3	36.8	-6	78	2,451	52	83	16
14 年	14.6	37.9	-3.3	76	2,047	46	77	22
15 年	14.3	36.2	-5.5	77	1,829	28	71	7
16 年	15.4	37.2	-4.7	76	2,510	46	60	13
17 年	14.5	37.2	-5.9	78	2,114	45	59	10
18 年	14.5	36.8	-6.3	78	2,083	79	78	13
19 年	15.0	38.6	-4.2	76	1,850	18	未測定	14
20 年	14.6	38.4	-2.3	77	2,020	32	84	18
21 年	14.6	36.3	-5.2	77	2,136	43	94	3
22 年	15.2	38.0	-3.7	76	1,993	21	62	38
23 年	14.5	37.7	-5.9	78	2,424	75	60	22
24 年	14.3	37.7	-5.8	79	2,252	100	67	32
25 年	14.9	37.9	-4.4	77	1,997	33	58	25
26 年	14.4	38.7	-3.4	80	2,002	30	71	8
27 年	14.9	37.6	-2.8	81	2,018	42	61	11

資料：気象庁

(2) 大気の状態

① 県一般環境大気測定局における測定結果：年平均値（市役所測定局）

年度	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
一酸化窒素 (ppm)	0.003	0.004	0.005	0.004	0.004	0.001	0.003	0.002	0.003	0.001	0.001	0.001
二酸化窒素 (ppm)	0.009	0.009	0.012	0.008	0.007	0.007	0.007	0.006	0.007	0.007	0.006	0.005
二酸化硫黄 (ppm)	0.003	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001
浮遊粒子物質 (mg/m ³)	0.019	0.019	0.020	0.019	0.017	0.018	0.015	0.022	0.018	0.020	0.022	0.019

資料：兵庫県環境白書

② 県自動車排出ガス測定局における測定結果：年平均値（国道 312 号小尾崎測定局）

年度	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
一酸化窒素 (ppm)	0.010	0.008	0.007	0.006	0.006	0.005	0.004	0.003	0.005	0.004	0.003	0.003
二酸化窒素 (ppm)	0.017	0.016	0.015	0.013	0.012	0.011	0.009	0.008	0.009	0.008	0.005	0.007
一酸化炭素 (ppm)	0.6	0.5	0.5	0.5	0.4	0.4	0.4	(0.3)	0.3	0.3	0.3	0.3

※ () は、有効測定時間数 (6000 時間/年) に達していない値を示す。

資料：兵庫県環境白書

(3) 河川の水質 (BOD 生物化学的酸素要求量) の推移

(単位: mg/l)

河川	観測地点 (環境基準)	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
円山川上流	上ノ郷 (2.0mg/l)	0.6	0.6	0.6	0.5	0.6	0.6	0.8	0.6	0.6
円山川下流	立野大橋 (3.0mg/l)	0.6	0.5	0.5	0.5	0.6	0.7	0.8	0.8	0.8
竹野川	竹野新橋 (2.0mg/l)	0.5	0.5	0.5	0.5	0.6	0.5	0.5	0.5	0.6

資料: 兵庫県環境白書

2. コウノトリ

(1) コウノトリの野生復帰の歩み

年 代	コウノトリの野生復帰の歩み
昭和30年(1955年)	コウノトリ保護協賛会が発足し、官民一体となった保護運動を展開。
昭和31年(1956年)	コウノトリは20羽に減少。コウノトリが国特別天然記念物の指定を受ける。
昭和37年(1962年)	兵庫県が、国の特別天然記念物コウノトリの管理団体として指定を受ける。
昭和38年(1963年)	コウノトリは11羽に減少。巣から卵を取り、人工孵化を試みるが成功せず、野生個体を捕獲し、人工飼育に踏み切ることを決定。
昭和39年(1964年)	コウノトリ飼育場(現保護増殖センター)の建設に着手。
昭和40年(1965年)	野上地区にコウノトリ飼育場が完成。 一つがいを保護し、人工飼育スタート。
昭和46年(1971年)	野生最後の1羽が豊岡市内で保護されたが死亡。これにより日本国内の野生コウノトリが消滅。
昭和60年(1985年)	ロシア(ハバロフスク地方)から野生の幼鳥6羽を受贈。
昭和61年(1986年)	豊岡盆地に生息し、飼育場で人工飼育されていた最後のコウノトリが死亡。
平成元年(1989年)	人工飼育で初の繁殖に成功。以後、毎年繁殖に成功。
平成4年(1992年)	野生復帰構想スタート。
平成6年(1994年)	飼育下第3世代が誕生。 「第1回コウノトリ未来・国際かいぎ」開催。
平成9年(1997年)	県立コウノトリの郷公園の整備に着手。
平成10年(1998年)	増殖事業は軌道に乗り、飼育下のコウノトリは50羽を超える。
平成11年(1999年)	県立コウノトリの郷公園が開園。
平成12年(2000年)	市立コウノトリ文化館が開館。 「第2回コウノトリ未来・国際かいぎ」開催。
平成13年(2001年)	飼育コウノトリは80羽を超える。
平成14年(2002年)	飼育コウノトリが100羽を超える。 野生のコウノトリ(ハチゴロウ)が飛来し定着する。
平成15年(2003年)	県が「コウノトリ野生復帰推進計画」を策定。 コウノトリ野生復帰推進連絡協議会が設置される。 市が安全・安心な農産物ブランド「コウノトリの舞」を商標登録。 「コウノトリと共生する水田づくり」を始める。
平成16年(2004年)	「コウノトリファンクラブ」が発足する。
平成17年(2005年)	9月24日コウノトリ5羽を自然放鳥。 「第3回コウノトリ未来・国際かいぎ」を開催。

平成18年(2006年)	野生のコウノトリ(エヒメ)が飛来し定着する。 放鳥拠点(祥雲寺)から2羽が巣立ち(段階的放鳥)。 飼育コウノトリ3羽を自然放鳥、放鳥拠点(河谷)のコウノトリ4羽を段階放鳥。
平成19年(2007年)	5月20日国内の野外で43年ぶりにヒナ1羽が誕生し、7月31日46年ぶりに巣立つ。 飼育コウノトリ3羽を自然放鳥(楽々浦)、放鳥拠点(山本)の2羽を放鳥。
平成20年(2008年)	5月20日を「生きもの共生の日」と定める。 野外で8羽のヒナが巣立つ。
平成21年(2009年)	放鳥拠点(三木)から2羽が巣立ち(段階的放鳥) 市立ハチゴロウの戸島湿地オープン。 野外で9羽のヒナが巣立つ。
平成22年(2010年)	放鳥拠点(唐川)の2羽を放鳥 第4回「コウノトリ未来・国際かいぎ」を開催 野外で9羽のヒナが巣立つ。
平成23年(2011年)	兵庫県教育委員会とコウノトリの郷公園が「コウノトリ野生復帰ランドデザイン」を発表。 福井県越前市に1ペア(2羽)を移送。 野外で9羽のヒナが巣立つ。
平成24年(2012年)	7月3日「円山川下流域・周辺水田」がラムサール条約湿地に登録。 放鳥コウノトリに3世誕生。 野外で14羽のヒナが巣立つ。
平成25年(2013年)	豊岡市立三江小学校の人工巣塔から、初の巣立ち。 野外で22羽のヒナが巣立つ。
平成26年(2014年)	豊岡生まれのコウノトリが初めて国境を越え、韓国金海市に飛来。 第5回「コウノトリ未来・国際かいぎ」を開催(コウノトリ野生復帰の取り組みの特長や課題をまとめた報告書を発表)。 野外で16羽のヒナが巣立つ。
平成27年(2015年)	7月23日千葉県野田市で3羽のコウノトリを放鳥(兵庫県外で初の放鳥)。 9月3日韓国忠清南道禮山郡で、韓国初となる放鳥(8羽を放鳥)。 10月3日福井県越前市白山区で2羽のコウノトリを放鳥。 野外で13羽のヒナが巣立つ。

(2) コウノトリの羽数 (H28.3.31 現在)

区 分	生息数
兵庫県立コウノトリの郷公園の飼育個体	96羽
野外で生息する個体(ヒナを除く)	76羽
飛来した野生個体	1羽
合 計	172羽

資料：県立コウノトリの郷公園

3. 人口、世帯数、就業者数の推移

(1) 世帯及び人口の推移 (各年10月1日現在)

年次	面積 (k m ²)	世帯数 (戸)	人口 (人)			1世帯当 りの人員	年齢別人口 (人)		
			総数	男	女		14歳以下	15~64歳	65歳以上
◎H7	697.66	28,131	93,859	44,974	48,885	3.34	16,072	58,557	19,230
◎H12	697.66	29,181	92,752	44,637	48,115	3.18	14,508	56,489	21,755
◎H17	697.66	29,617	89,208	42,695	46,513	3.01	12,966	53,177	23,059
◎H22	697.66	29,741	85,592	40,791	44,801	2.88	11,893	49,523	24,144
H23	697.66	29,865	84,876	40,478	44,398	2.84	-	-	-
H24	697.66	29,800	84,116	40,167	43,949	2.82	-	-	-
H25	697.66	29,856	83,338	39,808	43,530	2.79	-	-	-
H26	697.66	29,983	82,462	39,405	43,057	2.75	-	-	-
◎H27	697.55	30,152	82,269	39,497	42,772	2.73	-	-	-

(注) 本表は5年毎の国勢調査結果及び兵庫県推計人口結果 ◎は国勢調査結果 (H27は速報値)

(2) 産業別就業者数 (単位: 人)

区分	H2	H7	H12	H17	H22	H27
第1次	5,453	4,823	3,581	3,544	2,873	公表未
第2次	17,921	17,129	15,485	13,485	11,196	公表未
第3次	26,217	27,834	28,179	28,088	26,743	公表未
分類不能	48	20	143	73	864	公表未
計	49,639	49,806	47,388	45,190	41,676	公表未

資料: 国勢調査

4. 森林面積

(1) 樹種別森林面積 (単位: ha)

区分	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
針葉樹	26,008	26,025	26,070	26,076	26,076	26,077	26,077	26,062	26,092
広葉樹	27,409	27,400	27,351	27,345	27,345	27,336	27,336	27,306	27,297
その他	1,120	1,115	1,116	1,116	1,116	1,117	1,117	1,142	1,148
計	54,537	54,540	54,537	54,536	54,536	54,530	54,530	54,510	54,537

注: 端数処理の関係で合計数値が合わない

資料: 兵庫県森林GISシステム

(2) H28. 3. 31 現在所有者別森林面積

区分	針葉樹	広葉樹	その他	総数
公有林	1,747	1,552	61	3,360
私有林	24,345	25,745	1,087	51,177
共有林	0	0	0	0
総数	26,092	27,297	1,148	54,537

注: 端数処理の関係で合計数値が合わない

(3) 林業就業者数

平成17年	平成22年	平成27年
26人	101人	68人

資料: 国勢調査 (H22から集計方法変更。農家林家を含む)

(4) 市内の除間伐の面積

年度	面積 (ha)
H22	723
H23	890
H24	515
H25	519
H26	498
H27	401

(注) 市、公社、民間等の行造林すべてを含む 資料：北但東部森林組合

5. 農業

(1) 農家数の推移

(単位：戸)

区分	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27
専業	585	647	617	468	546	570	472
1種兼業	855	562	648	361	296	304	303
2種兼業	6,930	6,251	5,496	3,703	2,936	2,270	1,768
自給的農家				1,732	2,021	2,088	1,912
合計	8,370	7,460	6,761	6,264	5,799	5,232	4,455

※平成12年から自給的農家の専兼業別調査の簡素化

資料：世界農林業センサス

(2) 経営耕地のある農家数と経営耕地面積(平成27年)

(単位 農家数：戸、面積：ha)

区分	総数		田		畑		樹園地	
	農家数	面積	農家数	面積	農家数	面積	農家数	面積
総数	2,542	3,020	2,520	2,767	1,655	227	149	26

資料：世界農林業センサス

6. 漁業

(1) 漁家数、漁獲量、漁獲高の推移

年次	漁家数(戸)			漁獲量(t)			漁獲高(万円)		
	計	津居山港	竹野浜	計	津居山港	竹野浜	計	津居山港	竹野浜
H18	221	124	97	2,941	2,324	617	191,088	177,582	13,506
H19	210	119	91	2,706	2,285	421	190,926	173,778	17,148
H20	206	115	91	2,771	2,356	415	192,380	175,209	17,171
H21	205	114	91	2,248	1,731	517	168,056	153,399	14,657
H22	198	112	86	2,286	1,939	347	160,490	147,231	13,259
H23	183	108	75	2,310	2,117	193	162,615	152,825	9,790
H24	179	108	71	2,375	2,177	198	164,312	154,493	9,819
H25	167	105	62	2,506	1,987	519	163,244	153,028	10,216
H26	160	101	59	2,425	2,158	267	171,377	159,616	11,761
H27	154	97	57	2,484	2,101	383	189,073	178,505	10,568

資料：但馬漁協 津居山支所、竹野支所

7. ごみ

(1) ごみ収集量 (単位：t) [参考] 1人あたりの収集量 (単位：人/kg)

年度	計	計画収集	一般搬入	人口	1人あたり
H18	36,150	17,691	18,459	91,375	395.6
H19	32,610	17,080	15,530	90,443	360.6
H20	29,448	16,441	13,007	89,762	328.1
H21	28,374	16,059	12,315	89,169	318.2
H22	27,796	15,612	12,184	88,407	314.4
H23	28,736	15,872	12,864	87,585	328.1
H24	28,941	15,767	13,174	87,040	332.5
H25	28,362	15,353	13,009	86,173	329.1
H26	28,568	15,130	13,438	85,244	335.1
H27	28,934	14,925	14,009	84,337	343.1

(注) 清掃土砂、災害ごみを除く 資料：生活環境課

(注) コウノトリ共生課で作成

(2) ごみ種別搬入量 (単位：t)

年度	燃やすごみ	燃やさないごみ	びん・かん	ペットボトル	プラスチック製容器包装	紙製容器包装	計	水路土砂
H18	32,252	2,074	1,083	98	428	215	36,150	384
H19	29,226	1,730	941	88	426	198	32,610	425
H20	26,270	1,586	898	80	424	190	29,448	369
H21	25,287	1,548	889	73	405	173	28,374	388
H22	24,798	1,497	863	81	395	162	27,796	412
H23	25,803	1,497	809	90	382	155	28,736	37
H24	25,942	1,609	784	90	370	146	28,941	0
H25	25,507	1,512	752	89	364	139	28,363	0
H26	25,858	1,457	693	82	348	131	28,569	0
H27	26,064	1,653	669	82	335	131	28,934	0

資料：生活環境課

(3) 資源ごみ集団回収量 (単位：t)

年度	団体数	紙類	布類	スチール缶	ビン類	アルミ缶	牛乳パック	計
H18	680	3,731	90	2	34	42	9	3,908
H19	680	3,747	90	1	30	43	10	3,921
H20	657	3,477	88	1	27	43	10	3,646
H21	667	3,323	86	1	25	49	9	3,493
H22	662	3,261	80	2	20	50	9	3,422
H23	635	3,078	79	2	17	51	9	3,236
H24	634	2,916	86	2	16	47	9	3,076
H25	644	2,913	81	2	14	43	9	3,062
H26	651	2,777	79	1	13	44	9	2,923
H27	663	2,575	80	1	12	42	8	2,718
補助金単価 (※1)		6円	5円	5円	5円	5円	5円	
補助金単価 (※2)		7円	7円	2円	2円	2円	7円	

※1 1kg当たりの単価。ビン類（1升ビン、ビール瓶が対象）は2本を1kgに換算。

※2 平成24年度より補助金単価を変更。

資料：生活環境課

8. 指定文化財（平成28年3月31日現在）

区分	種別	国指定	県指定	市指定	計
有形文化財	建造物(石造物を含む)	6	6	43	55
	絵画	1	6	18	25
	彫刻	4	13	30	47
	工芸品	1	1	18	20
	書跡・典籍		1	30	31
	古文書			8	8
	考古資料		6	15	21
	歴史資料		1	3	4
無形文化財	無形文化財保持者			1	1
民俗文化財	有形民俗		1	7	8
	無形民俗		2	9	11
史跡名勝 天然記念物	史跡	2	6	30	38
	名勝	1	3	9	13
	天然記念物	2	12	21	35
	〃(地域を定めず)	7			7
	特別天然記念物				
	〃(地域を定めず)	2			2
伝統的 建造物群	伝統的建造物群 保存地区	1			1
計		27	58	242	327

資料：教育総務課

9. エネルギー

(1) 電灯・電力消費量（単位：千kWh）

年度	総量	電灯	電力	その他
H22	296,084	254,286	41,798	未公表
H23	287,049	247,345	39,704	未公表
H24	278,367	240,801	37,566	未公表
H25	274,968	236,386	35,923	未公表
H26	262,558	226,692	33,736	未公表
H27	253,508	218,858	32,725	1,925

- (注) 1 電灯とは、定額電灯、従量電灯、公衆街路灯、時間帯別電灯
 2 電力とは、深夜電力、低圧電力、事業用電力
 3 その他とは、建設工事用、臨時電灯・電力、農事用電力、融雪用電力
 4 特定規模需要（自由化対象需要）の実績は含まない。

(2) ガスの業種別需要状況 (単位：千m³)

年度	総数	家庭用	業 務 用			
			計	商業用	工業用	その他
H22	7,363	2,804	4,559	2,059	36	2,464
H23	7,217	2,739	4,479	2,020	28	2,431
H24	7,184	2,672	4,512	2,109	25	2,378
H25	7,538	2,558	4,980	2,604	19	2,357
H26	7,620	2,546	5,074	2,709	17	2,348
H27	7,375	2,412	4,962	2,701	19	2,243

※供給ガスの熱量は 45MJ/m³ (10,750Kcal/m³)

資料：(株)豊岡エネルギー

(3) 太陽光発電システム設置状況 (単位 出力：kW；削減量：t)

設置年度	住宅		公共施設・事業所	
	出力	CO ₂ 削減量	出力	CO ₂ 削減量
平成 18 年度	106.7	33.6	3.0	0.9
平成 19 年度	87.7	27.6	4.8	1.5
平成 20 年度	121.2	38.1	40.3	12.7
平成 21 年度	254.4	80.0	8.7	2.7
平成 22 年度	301.4	94.8	399.7	125.7
平成 23 年度	350.5	110.2	23.8	7.5
平成 24 年度	407.6	128.2	695.2	218.6
平成 25 年度	346.8	109.1	350.0	110.1
平成 26 年度	123.8	38.9	5.5	1.7
平成 27 年度	147.2	46.3	1,123.0	353.2
計	2,247.3	706.8	2,654.0	834.6

※CO₂削減量は太陽光発電協会のデータにより算出

資料：エコバレー推進課

10. 下水道普及率

年 度	処理区域	供用開始人口	普及率	水洗化済人口	水洗化率
H22	3,077ha	87,789 人	99.9%	78,869 人	89.8%
H23	3,083ha	87,003 人	99.9%	78,740 人	90.5%
H24	3,085ha	86,917 人	99.9%	79,364 人	91.3%
H25	3,089ha	86,165 人	99.9%	78,957 人	91.6%
H26	3,090ha	85,236 人	99.9%	78,323 人	91.9%
H27	3,094ha	84,333 人	99.9%	78,083 人	92.6%

資料：下水道課

第4部 市の取り組み実績

■市の取り組みについて

環境基本計画第6章「3. 市の取り組み（行動指針）」に基づき、市の取り組み実績を整理しています。

行動指針 1 森林を保全し、活用します

(1) 自然豊かな森林の保全、創造（森林の公益的機能の維持増進）

- ① 多様な動植物の生息環境を守るため森林を保全
- ② 無秩序な森林開発を抑制
- ③ 針葉樹と広葉樹の混交林整備を進め里山を保全

(2) 林業の担い手育成支援と地元産材の利用促進

- ① 林業の担い手を育成
- ② 地元産、国内産の木材を利用
- ③ 公共施設を木造・木質化
- ④ 間伐材を活用した木材製品を利用
- ⑤ 間伐材の有効利用を検討
- ⑥ 木質バイオマスなど森林資源を有効利用

(3) 森林での自然体験、ボランティア活動

- ① 森林を体験学習、保健休養の場として活用
- ② 間伐、枝打ちなどの森林ボランティア活動を検討

(4) 災害に強い森づくり

- 土砂災害防止、水源かん養など森林の有する機能を維持増進

行動指針 1 に関する豊岡市の取組み

取組みの内容	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	備考
除間伐等面積(市行造林) (ha)	73.57	68.60	27.38	32.92	50.74	75.51	50.83	61.82	35.6	農林水産課
広葉樹植樹面積(ha)	0.90	1.37	—	—	—	—	—	—	—	〃
〃 苗木提供数 (本)	420	300	137	117	86	130	53	35	60	〃
市施設木造・木質化数										建築住宅課
(新築) (棟)	1	5	3	0	4	2	1	4	1	
(増築) (棟)	0	3	1	2	1	2	1	1	0	
ペレットストーブ設置数(台)	4	35	45	48	161	27	0	18	0	農林水産課
住宅用ペレットストーブ設置補助数(件)					6	5	8	17	8	エコバレー推進課
〃 補助金額(万円)					102	90	143	282	138	〃
住宅用薪ストーブ設置補助数(件)							5	22	14	〃
〃 補助金額(万円)							99	435	280	〃
住宅用薪ボイラー設置補助数(件)								2	0	〃
〃 補助金額(万円)								34	0	〃
ペレットボイラー設置数(台)			1	1	1	1	1	0	0	農林水産課
奈佐森林公園利用者数(人)	5,036	5,482	5,081	3,606	3,874	4,703	4,367	4,737	5,167	〃
竹野南森林公園体験教室開催数(回)	6	6	6	6	6	5	7	6	6	竹野 地域振興課
〃 参加者数(人)	79	91	96	84	103	120	169	91	117	
竹伐採ボランティア数(人)	32	25	15	—	49	116	123	105	19	コウノトリ共生課
間伐材による土留工数(箇所)	102	192	188	158	107	56	22	24	20	農林水産課

行動指針 2 川や海などの水辺環境を保全します

(1) 多自然型の川づくり、砂浜の侵食防止

- ①人と自然がふれあえる多自然型の川づくり
- ②砂浜の侵食を防ぐなど海辺を保全

(2) 多様な生きものが生息できる水辺環境の保全

多様な生きものが生息できる水辺づくり

(3) 河川等での環境美化活動

- ①地域等で行われる川の清掃活動促進
- ②海などでのごみの撤去
- ③川や海に流れ込む草、わら削減啓発
- ④川や海にごみを捨てない啓発

(4) 水の利用と水質の保全

- ①水道の水質向上、水量確保
- ②節水や水の再利用
- ③下水道の整備、利用促進による水質悪化防止
- ④農業排水などによる川の水の濁り防止啓発
- ⑤石けん等の使用啓発

(5) 水産業の振興

- ①資源管理型漁業（自主的な採捕制限）促進
- ②魚礁設置など自然環境に配慮した漁場拡大
- ③稚魚放流など水産資源の維持育成促進
- ④水産加工ごみの効率的な処理や有効活用支援
- ⑤水産業の担い手育成・確保

行動指針 2 に関する豊岡市の取組み

取組みの内容	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	備考
湿地整備面積（新規）(ha)		3.20				5.42				コウノトリ共生課
湿地管理ボランティア数（人）			457	521	190	208	312	212	249	〃
漁港漂着ごみ清掃委託数（箇所）	5	5	5	5	5	5	5	5	5	農林水産課
海岸清掃・管理委託数（箇所）	4	4	4	4	4	4	4	4	4	建設課
海岸漂着物地域対策(GND事業)(t)		—	—	34.88	28.84	0.00	13.90	30.90	5.10	生活環境課
不法投棄監視カメラ（台）		—	—	6	6	6	6	6	6	〃
不法投棄防止看板設置・配布数（枚）	28	56	44	16	70	50	40	40	30	〃
上水道配水量(1人/日)(ℓ)	438	439	434	440	429	424	427	423	426	水道課
簡易水道配水量(1人/日)(ℓ)	419	412	395	411	399	398	395	392	416	〃
水洗化率(%)	86.2	88.2	88.8	89.8	90.5	91.3	91.6	91.9	92.6	下水道課
(公共下水道)(%)	85.5	87.6	88.3	89.5	90.1	91.0	91.3	91.6	92.3	
(集落排水等)(%)	88.6	90.2	90.8	91.1	92.0	92.5	92.7	92.9	93.6	
魚礁設置数(個)	113	—	98	120	0	0	110	88	57	農林水産課
河川の稚魚・貝放流補助金(万円)	81	188	191	173	191	191	191	191	191	〃

行動指針3 農業を将来にわたって維持します

(1) 環境創造型農業の推進

- ①農薬や化学肥料に頼らない環境創造型農業推進
- ②多様な生きものの生息場所、降雨時の保水のため農地の保全促進
- ③たくさんの生きものが住む農地の拡大促進
- ④田んぼに生きものが生息できるための魚道等の整備促進
- ⑤山間棚田等での耕作放棄地の拡大防止

(2) 元気が出る農業づくりの推進

- ①安全・安心な農産物生産促進
- ②消費者と農業者との交流促進
- ③県森林動物研究センターと連携し有害鳥獣の計画的な駆除・防除
- ④イノシシ肉などの食材としての利用検討

(3) 農業の担い手育成

- ①認定農業者、農業後継者など多様な担い手の育成・確保
- ②生産組織の育成による農業経営の効率化促進
- ③生産者、団体のネットワーク化促進

(4) 畜産業の振興

- 家畜ふん尿をたい肥として利用する耕畜連携促進

(5) グリーンツーリズムの推進

- 農家民宿、市民農園などによる体験交流型農業促進

行動指針3に関する豊岡市の取組み

取組みの内容	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	備考
コウノトリ育む農法作付面積 (ha)	157.0	183.1	212.3	219.5	234.1	251.6	269.7	292.7	329.3	農林水産課
育むお米 取扱店舗数 (店舗)			325	400	500	500	500	500	500	〃
農地・水・農村環境保全活動組織 (組織)	133	133	133	133	133	114	116	116	124	〃
冬期湛水水田面積 (ha)	20.4	64.8	72.2	83.5	137.0	189.3	212.4	251.7	254.3	〃
魚道設置箇所 (累計) (箇所)	106	110	110	110	110	110	110	110	111	〃
中山間地域等生産活動支援地区数 (地区)	39	39	38	32	32	32	36	36	40	〃
コウノトリの舞 認証団体数 (団体)	39	43	41	44	46	49	52	55	54	〃
同農産物数 (品目)	31	34	33	32	29	29	31	39	30	〃
同食品数 (食品)			1	2	2	5	6	6	6	〃
認定農業者数 (経営体)	110	116	110	113	115	119	122	134	132	〃
集落営農組織数 (集落)	32	37	39	40	41	41	45	49	52	〃
農業法人数 (法人)	10	11	11	13	16	19	19	20	21	〃
J A たじま作物別生産部会数 (部会)	33	33	33	27	27	27	27	27	34	〃
耕畜連携堆肥利用事業面積 (ha)	125.0	135.4	152.2	152.8	150.8	165.1	167.2	181.3	148.4	〃
市民農園設置数 (箇所)	5	5	5	5	5	5	4	4	4	〃
市民農園設置数 (区画)	326	371	253	253	253	253	213	213	213	〃
同利用数 (区画)	192	137	194	194	194	201	185	133	170	〃

取組みの内容	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	備考
農業スクール研修生(人)							3	2	2	農林水産課
農家民宿数(戸)	5	5	5	5	5	5	5	4	4	〃
農地転用面積(許可書交付)(ha)		10.5	6.4	6.1	4.9	7.9	8.5	6.9	6.4	農業委員会
遊休農地面積(調査時の概括)(ha)		116.5	132.5	132.8	127.7	100.6	68.8	66.9	71.6	〃

・有害鳥獣の駆除、防除は、行動指針4に記載

行動指針4 生きものがバランス良く生息する自然環境を保全します

(1) 多様な生きものの生息環境の保全

- ① ビオトープづくり推進
- ② 自然環境に配慮した多自然型工事推進
- ③ 開発時の野生動植物の生息・生育環境保全
- ④ 生きものとふれあう体験学習の場提供
- ⑤ 農薬や化学肥料に頼らない環境創造型農業推進

(2) 野生動植物の保護

- ① 野生動植物の生息・生育状況調査、情報提供
- ② 希少動植物保護
- ③ ペット動物は責任を持って飼育するよう啓発
- ④ 地域固有の生態系保全のため、外来種を持ち込まないよう啓発

(3) 野生動物対策の推進

- ① シカやイノシシ、クマなどの生息環境の保全、健全な里山づくり推進
- ② 県森林動物研究センターと連携した有害鳥獣の計画的な駆除・防除推進

(4) コウノトリの野生復帰の受け皿づくり

- ① コウノトリのエサ場、ねぐらなど生息環境保全
- ② コウノトリ野生復帰の取り組みの様々な情報発信

行動指針4に関する豊岡市の取組み

取組みの内容	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	備考
ビオトープ水田面積(ha)	16.0	12.5	7.8	11.9	12.2	12.7	12.5	12.4	12.8	コウノトリ共生課
生きものとふれあう体験学習(公民館別)(回)	3	5	5	5	6	7	7	6	5	〃
同(小学校)(校)	1	4	5	14	12	20	16	17	13	〃
コウノトリKIDSクラブ(回)				7	9	8	8	8	9	〃
コウノトリ情報誌「FLY TO THE WILD」発行(回)	4	4	4	3	3	1	0	0	0	〃
小さな自然再生活動支援助成事業(件)					2	3	1	4	8	〃
ペット飼育マナー啓発(広報掲載)(回)	1	2	2	1	1	1	1	1	1	生活環境課
〃(チラシ配布)(回)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	〃
外来種(魚)駆除回数(回)		1	1	1	1	1	1	1	2	コウノトリ共生課

取組みの内容	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	備考
防護柵設置延長(補助金分) (m)	43,021	24,730	71,628	42,174	69,679	73,557	19,290	37,530	42,728	農林水産課
地区数 (地区)	48	32	47	22	57	29	17	21	31	
個人数 (人)		57	76	42	104	62	28	59	59	
防護柵、捕獲柵等補助金額 (万円)	726	716	9,588	7,740	7,885	9,104	4,204	4,183	5,602	
有害鳥獣駆除数 シカ (頭)	1,410	2,238	2,334	3,104	2,689	2,675	3,483	4,041	4,815	"
同 イノシシ (頭)	559	779	1,420	1,624	926	751	1,155	1,383	1,809	
同 その他 (頭)	125	95	85	138	85	122	101	183	308	
バッファゾーン整備面積 (ha)			19.34	18.93	17.40	26.49	15.00	15.00	15.00	"
箇所数 (箇所)			4	5	6	5	3	5	5	

- ・湿地整備は行動指針 2 に記載
- ・環境創造型農業 (コウノトリ育む農法、コウノトリの舞、冬期湛水・中干し延期稲作型水田) は行動指針 3 に記載

行動指針 5 地域の文化や景観を保存し、活用します

(1) 文化財の保護と活用

- ①文化財の保護活動推進
- ②開発時の文化財保護
- ③文化、歴史の講座開催

(2) 地域に伝わる伝統行事、文化の継承

伝統行事や文化の継承支援

(3) 芸術、文化活動の振興

芸術・文化活動の活性化支援

(4) 地域の特色ある景観の保全

- ①歴史や伝統のある建物、景観を生かしたまちづくり推進
- ②まちのシンボルとなる文化、歴史資源の観光への活用推進
- ③地域の特色ある景観の保全促進
- ④開発時の地域の景観配慮
- ⑤地域の植生にあった植栽推進
- ⑥屋外広告物、自動販売機の設置抑制検討
- ⑦電柱の地中化、美装化
- ⑧地域の風土に合った住宅の建設促進
- ⑨地元産材など昔からあった素材の使用促進

(5) 環境美化意識の高揚

- ①公共施設の緑化や花づくり推進
- ②道路への植樹、植栽とその適正管理
- ③地域の緑化や花づくり活動促進
- ④庭に花を植えるなど良好な景観を演出する取組み促進

(6) 緑豊かな公園の整備

- ①子どもから高齢者までが安心して遊び、憩えるように配慮
- ②自然環境、地形、地域の植生に配慮
- ③開発時の公園整備
- ④公園の清掃、適正管理
- ⑤施設、公園の利用上のルールやマナー啓発

行動指針 5 に関する豊岡市の取組み

取組みの内容	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	備考
遺跡確認調査件数 (件)	7	7	5	5	3	12	8	12	13	教育総務課

取組みの内容	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	備考
文化財防災訓練数(回)	1	1	1	1	1	1	1	1	0	教育総務課
文化財パトロール数(件)			226	162	177	107	121	112	125	〃
文化財保護補助金交付数(件)	12	13	14	13	9	7	12	5	6	〃
〃 補助金額(万円)	16	30	518	251	193	33	77	608	1,392	〃
事業に先立つ埋蔵文化財調査数(件)	14	6	9	6	6	8	3	3	14	〃
発掘調査現地説明会数(回)		2	1	1	1	0	0	2	1	〃
但馬国府・国分寺館公開講座数(講座)	6	3	4	3	12	11	16	19	11	〃
〃 参加者数(延べ)(人)	332	290	552	238	389	248	417	323	305	〃
日本・モンゴル民族博物館体験講座数(講座)	12	10	23	16	10	7	8	11	9	文化振興課
〃 参加者数(延べ)(人)	94	70	344	162	112	82	94	140	106	〃
〃 講演会開催数(講座)	8	2								〃
〃 参加者数(延べ)(人)	未計数	31								〃
伝統芸能伝承事業補助数(件)	5	5	5	5	5	5	5	5	5	教育総務課
〃 補助金額(万円)	96	96	96	96	96	96	96	96	96	〃
豊岡市美術展出品数(点)	6,893	6,829	6,394	6,281	6,337	6,422	6,316	6,111	5,970	文化振興課
〃 入場者数(人)	10,876	10,644	9,351	9,393	9,411	10,041	9,202	9,116	9,652	〃
入館者数(出石永楽館)(人)		未計数	14,733	16,370	14,191	15,102	17,751	18,066	25,263	〃
〃 (歴史博物館)(人)	9,204	9,034	10,030	9,512	8,007	8,345	7,727	8,090	8,319	教育総務課
〃 (日本・モンゴル民族博物館)(人)	17,136	16,848	14,591	11,623	10,553	11,755	10,657	10,017	9,840	文化振興課
〃 (豊岡市立美術館・伊藤清久記念館)(人)	14,662	12,368	15,582	5,497	6,440	6,834	8,653	9,827	8,350	〃
〃 (植村直己冒険館)	36,849	31,109	28,835	25,259	30,900	22,866	25,062	26,999	26,051	生涯学習課
自主事業入場者数(豊岡市民会館)(人)	9,448	6,018	8,949	8,066	7,175	5,999	9,262	10,297	8,993	文化振興課
〃 (出石文化会館)(人)	1,974	1,790	1,307	1,707	1,260	726	1,295	782	628	〃
使用者数(豊岡市民会館)(人)	142,938	113,173	108,517	110,204	115,611	107,932	88,071	80,889	94,591	〃
〃 (出石文化会館)(人)	18,193	20,148	20,662	22,769	17,732	17,017	12,915	19,312	17,014	〃
〃 (豊岡市民プラザ)(人)	105,106	107,005	104,758	113,184	120,973	128,437	123,746	116,678	109,734	生涯学習課
出石伝統的建造物群保存事業補助数(件)		4	5	7	5	6	5	4	5	教育総務課
〃 補助金額(万円)		1,773	2,258	3,581	2,996	3,221	2,331	2,366	2,450	〃
屋外広告物の許可数(件)	87	219	125	174	157	219	178	183	157	都市整備課
景観形成事業助成数(件)	5	9	3	8	3	3	5	4	1	〃
〃 助成金額(万円)	98	162	44	1,055	79	93	128	79	17	〃
花のある道づくり事業植栽花苗数(箇所)	29	29	27	28	27	27	27	27	22	生活環境課
「ヤナギ」植栽管理数(箇所)	4	4	4	4	4	4	4	4	4	〃
「サツキ」植栽数(箇所)	3	3	3	3	3	3	3	3	3	〃

取組みの内容	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	備考
花苗の配布数(団体)	179	209	212	163	161	161	142	110	128	生活環境課
花と緑のまちづくり事業数(回)		5	2	2	1	1	1	1	1	〃
都市公園数(箇所)	26	26	26	26	25	25	25	25	25	都市整備課
開発行為による公園数(箇所)	51	52	52	52	52	52	52	52	53	〃
ジオパークジオガイド養成講座(回)				4	2	20	11	2	1	大交流課
小・中・高生ジオ講座受講者				277	134	60	164	32	0	〃

行動指針6 ごみの減量、再資源化を進めます

(1) ごみの減量

- ①平成12年度比25%減量推進
- ②パンフレット、チラシ等の削減
- ③レジ袋削減、マイバッグ持参運動推進
- ④5R運動推進
- ⑤修理、修繕ができる人づくり、店づくり促進
- ⑥自動販売機の設置抑制検討
- ⑦レジ袋の有料化、包装の簡略化など環境への負荷を低減する販売方法促進
- ⑧環境への負荷を低減する製品開発促進
- ⑨市のルールによるごみの適正分別促進
- ⑩ごみや汚泥の広域処理計画推進

(2) ごみの再資源化

- ①地区、PTA等による資源ごみの回収活動支援
- ②再生資源利用製品購入
- ③学校での児童・生徒によるリサイクル活動推進
- ④量販店等による空き容器、牛乳パック、食品トレーなどの拠点回収支援
- ⑤家庭から出る生ごみたい肥化支援

(3) 環境美化意識の高揚

- ①クリーン作戦実施
- ②不法投棄やポイ捨て防止啓発
- ③飼い主による犬のフンの処理啓発

(4) 事業活動による廃棄物の適正処理

- ①産業廃棄物、建設廃棄物の適正処理促進
- ②建築廃材の再利用促進
- ③農業廃棄物のリサイクル促進
- ④食品廃棄物の回収システム検討
- ⑤食品廃棄物のたい肥化促進

行動指針6に関する豊岡市の取組み

取組みの内容	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	備考
ごみ搬入量(t)	32,610	29,448	28,374	27,796	28,736	28,944	28,362	28,568	28,934	生活環境課
〃 12年度(42,878t)との比較(%)	-24	-31	-34	-35	-33	-33	-34	-33	-32	〃
レジ袋有料化等協定数(件)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	〃
資源ごみ集団回収量(t)	3,921	3,646	3,451	3,422	3,242	3,076	3,062	2,922	2,718	〃
〃 補助金申請団体数(延べ)(団体)	680	657	664	662	635	634	644	651	663	〃

取組みの内容	H 1 9	H 2 0	H 2 1	H 2 2	H 2 3	H 2 4	H 2 5	H 2 6	H 2 7	備考
〃 補助金額（万円）	2,335	2,171	2,054	2,037	1,926	2,120	2,114	2,017	1,875	生活環境課
資源ごみ常設回収庫補助件数（地区）	1	2	3	4	0	1	1	2	0	〃
市単価契約物品のうち再生利用品（品目）	108	97	101	94	95	89	89	89	89	総務課
〃 グリーン購入法適合品（品目）	66	53	60	52	78	88	67	69	69	
〃 エコマーク付商品（品目）	45	39	81	27	28	57	50	53	53	
学校資源ごみ回収実施校数（小中学校）（校）	10	12	28	28	34	36	35	29	36	こども教育課
学校でのリサイクル活動（小学校）（校）	2	26	24	23	28	30	29	29	29	〃
〃 （中学校）（校）	3	8	6	6	10	10	10	10	9	〃
空き容器回収機回収量（万本）	118	222	249	212	101	79	25	—	—	生活環境課
電気式生ごみ処理機補助金件数（件）	137	106	83	84	90	36	48	37	34	〃
クリーン但馬10万人大作戦参加人員（人）	36,909	36,459	30,124	37,964	32,449	37,256	36,594	37,040	35,839	〃
〃 ごみ回収量（t）	373.61	397.94	379.32	461.32	472.08	558.42	565.88	694.1	597	
犬のフン啓発看板配布数（枚）	32	47	91	41	33	25	25	25	20	〃
豊岡市農業用プラスチック適正処理対策協議会処理（件）	333	302	303	244	275	317	274	259	337	農林水産課
豊岡市農業用プラスチック適正処理対策協議会処理量（kg）	41,310	38,720	44,035	21,440	42,490	41,940	33,764	36,885	39,021	
再生利用業者指定数（件）	3		1	4	4	5	6	6	6	生活環境課

行動指針 7 地域力を高めます

(1) 河川等での環境美化活動

地域等で行われる川の清掃活動促進

(2) 農業の担い手育成

生産組織の育成による農業経営の効率化促進

(3) 地域に伝わる伝統行事、文化の継承

地域に伝わる伝統行事、文化の継承支援

(4) 地域の特色ある景観の保全

地域の特色ある景観の保全促進

(5) 環境美化意識の高揚

- ① 地域の緑化や花づくり活動促進
- ② 庭に花を植えるなど良好な景観を演出する取組み促進

(6) 地域における環境教育の推進

- ① リサイクルや省エネルギー、地球温暖化等の環境学習・教育推進
- ② 幼児期から環境に関する家庭教育促進
- ③ 子どもエコクラブ活動促進

(7) 環境を考える事業の実施

- ① 市民環境講座実施
- ② 環境問題をテーマにした各種イベント実施

(8) 環境に取り組む団体の育成

地域で環境活動に取り組む団体や個人の育成・支援

行動指針 7 に関する豊岡市の取組み

取組みの内容	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	備考
コウノトリ文化館市民講座開催回数(回)	4	10	5	3	4	2	4	1	14	コウノトリ共生課
マイバッグ啓発活動実施店舗数(件)	1	11	13	6	8	4	3	3	1	生活環境課
地域力再生補助(環境活動支援)件数(団体)	6	3	5	2	2	2	2	—	—	コミュニティ政策課
〃 補助金額(万円)	202	56	48	37	23	38	43	—	—	
豊岡エコポイント制度(P)										
市民エコポイント発行数(P)						24,888	49,689	41,800	—	エコバレー推進課
企業エコポイント発行数(P)						294.5万	483.5万	545.5万	—	

行動指針 8 地域から学ぶ学習・教育を進めます

(1) 環境に関する学校教育の推進

- ① 幼稚園、小・中学校で環境教育推進
- ② 身近な自然や歴史・文化を理解するための教育推進

(2) 地域や事業所等における環境教育の推進

- ① リサイクルや省エネルギー、地球温暖化等の環境学習・教育推進
- ② 事業所における環境学習協力
- ③ 幼児期からの環境に関する家庭教育促進
- ④ 子どもエコクラブ活動促進

(3) 体験活動の推進

- ① ふるさとに愛着を持ち、地域資源を見つめ直す体験活動支援
- ② 家族で参加できる自然体験活動や自然観察会実施
- ③ 子どもたちが自由に遊べるような自然の確保

行動指針 8 に関する豊岡市の取組み

取組みの内容	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	備考
地域の歴史・文化・伝統芸能等の体験教育実施校数										
(小学校)	17	20	22	22	22	23	23	29	23	こども教育課
(中学校)	4	4	4	4	4	7	7	7	8	
地域の自然・歴史・文化に関する資料等作成校数										
(小学校)	8	30	30	30	30	30	30	29	18	〃
(中学校)	1	0	1	1	1	4	4	5	7	
自然学校参加者数(人)		870	862	851	847	828	762	749	747	〃
農業体験(稲作)実施校数(小学校)	13	13	14	20	20	22	20	19	18	〃
里山観察等実施校数(小学校)		9	8	7	7	20	16	14	18	〃

取組みの内容	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	備考
川の体験活動実施数(小学校)(校)		11	17	19	22	29	27	28	29	こども教育課
小・中学校フイアティ・フイティシステムによる削減効果 (平成26年からシステム見直しのため22年比) ※平成25年度以前は17年度比(%)	-5.2	-3.9	-10.7	-7.7	-10.0	-8.6	-11.2	-7.4	-8.2	教育総務課
出前講座(環境学習関係)実施回数(回)	6	9	22	23	14	15	71	20	10	秘書広報課
受講者数(人)	257	247	652	703	332	564	3,987	762	188	
コロナトリお話し急便実施回数(回)	15	8	17	12	3	4	0	0	0	コロナトリ共生課
子どもの野生復帰大作戦参加者数										生涯学習課
(子どもコース)(人)	155	198	235	152	99	99	83	67	62	
(指導者養成)(人)	32	12	30			24	11	0	—	
(親子コース)(組)			44	67	52	51	61	66	45	
(野外キャンプ)(人)		159	138	62	72	73	91	115	57	

行動指針9 環境意識を高めます

(1) 環境を考える事業の実施

- ① 市民環境大学など市民向けの環境学習講座実施
- ② 環境問題をテーマにした各種イベント実施

(2) 環境美化意識の高揚

- ① 地区等で行われる環境美化活動支援
- ② 不法投棄やポイ捨ての防止啓発

(3) 環境に取り組む団体の育成

- ① 環境活動に取り組む団体育成推進
- ② 市民、事業所、学校、市の環境活動に関する情報の共有と活動のネットワークづくり推進

行動指針9に関する豊岡市の取組み

取組みの内容	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	備考
エコハウス暮らしの講座等実施(回)				8	8	7	1	0	0	エコバレー推進課

- ・ 市民環境大学は行動指針7に記載
- ・ 環境美化意識の高揚は行動指針5に記載

行動指針10 環境に関する知の集積を図ります

環境を研究する機関の誘致

- ① 環境をテーマに研究する高等教育機関の誘致推進
- ② 高等教育機関を核とした研究者や企業の交流促進
- ③ 異業種の交流促進
- ④ 環境経済型企業の育成・誘致推進
- ⑤ 事業者と研究者をつなぎ、産学連携を効果的に推進

行動指針 10 に関する豊岡市の取組み

取組みの内容	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	備考
産学連携協定締結数(校)			1	1	1	0	0	0	0	エコバレー推進課
コウノトリ野生復帰学術研究補助(件)		4	9	8	5	7	7	7	6	コウノトリ共生課

行動指針 11 地産地消を進めます

(1) 安全、安心な農林水産物の地元消費

- ① 地元でとれた安全・安心な農林水産物を学校給食で使用
- ② 地元でとれた安全・安心な農林水産物の地元消費促進
- ③ 食品の産地表示促進

(2) 消費者と農業者との交流

消費者と農業生産者との交流促進

(3) 食生活の向上と食育

- ① 環境にやさしい料理方法などを普及啓発
- ② 旬の野菜や伝統食の良さを普及啓発
- ③ 食に関する情報提供
- ④ 乳幼児から発達段階に応じた食育推進

行動指針 11 に関する豊岡市の取組み

取組みの内容	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	備考
学校給食での豊岡産野菜利用率(%)	27.6	28.6	31.1	28.0	26.8	23.1	22.8	28.9	27.1	教育総務課
学校給食での米飯給食回数(週5日のうち)										"
市内産米(回)	4	4	5	5	5	5	5	5	5	
うちコウノトリ育むお米(回)	0	0	1	1	2	2	2	2	3	
コウノトリの舞証産物数(品目)	31	34	33	32	29	29	31	39	30	農林水産課
" 加工品数(商品)			1	2	2	5	6	6	6	
マロニエの里認証商品数(商品)	47	46	23	21	21	21	15	20	14	日高地域振興課
市広報での食育PR回数(回)			6	6	4	4	3	0	0	健康増進課
成人向け栄養改善教室実施回数(回)	58	57	80	96	201	240	192	179	138	"
" 受講者数(延べ)(人)	988	810	1,483	1,969	2,967	2,419	2,033	2,165	1,991	
食育教室(保育園・幼稚園)実施回数(回)	14	17	32	36	34	36	33	38	36	"
" 受講者数(延べ)(人)	420	589	767	874	745	861	919	1,193	1,056	
"(未就学児・保護者)実施回数(回)	24	13	23	78	77	80	40	33	36	
" 受講者数(延べ)(人)	357	175	365	405	546	611	550	583	498	
離乳食講習会実施回数(回)	88	90	88	90	90	90	87	87	87	"
" 受講者数(延べ)(人)	1,362	1,535	1,326	1,478	1,344	1,458	1,373	1,220	1,175	

取組みの内容	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	備考
幼児食講習会実施回数(回)		123	123	106	106	106	98	97	96	健康増進課
〃 受講者数(延べ)(人)		800	1,512	1,444	1,519	1,435	1,517	1,316	1,362	
子育てセンター食育事業回数(回)	33	21	14	22	23	18	18	23	36	こども育成課
保育園料理教室等開催回数(園)	23	23	23	23	23	23	23	23	24	〃

・食品の産地表示促進(コウノトリの舞認証農産物)は行動指針3に記載

行動指針12 環境と経済の共鳴を進めます

(1) 豊岡型地産地消の推進

- ① 農薬や化学肥料に頼らない農産物のブランド化支援
- ② 朝市や農林漁業体験活動支援
- ③ エコ商品開発、リサイクル等の環境経済型の事業(エコビジネス)促進

(2) 環境創造型農業の推進

農薬や化学肥料に頼らない安全・安心な農産物の生産推進

(3) コウノトリツーリズムの展開

- ① コウノトリ、自然、歴史、文化資源等を生かした多様なツーリズム推進
- ② 市民によるツーリズムガイド養成

(4) 環境経済型企業の集積

- ① 環境経済型企業の育成・誘致
- ② 環境経済型の技術開発やゼロエミッションに取り組む企業支援
- ③ 異業種交流促進

(5) 自然エネルギーの利用

省エネルギーを経済効果に結びつけ、新エネルギーを導入した事業活動促進

(6) 環境ビジネスの創出支援

排出されたごみを可能な限り再利用する循環型の経済活動支援

行動指針12に関する豊岡市の取組み

取組みの内容	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	備考
直売所設置数(件)	36	42	40	40	39	39	39	39	39	農林水産課
ファーマーズマーケット設置数(件)	5	5	6	6	7	6	6	6	6	〃
コウノトリ文化館入館者数(人)	455,373	417,159	365,349	301,575	297,056	305,712	304,348	297,232	285,449	コウノトリ共生課
ツーリズムガイド利用者数(人)		8	269	674	626	279	217	206	281	〃
環境経済事業推進補助金(件)	4	5	8							エコバー推進課
〃 補助金額(万円)	425	499	661							
技術革新等支援事業補助金(件)				7	6	8	2	4	1	〃
(環境経済型関係) 〃 補助金額(万円)				1,036	1,329	1,371	321	330	303	

・農薬や化学肥料に頼らない農産物は行動指針3に記載

行動指針 13 省エネルギーに努め、新エネルギーの利用を図ります

(1) 日常生活における環境負荷の確認

- ① 家庭での節水や節電など環境行動普及啓発
- ② 環境家計簿普及啓発

(2) 新エネルギーの利用

- ① 太陽光発電システムを公共施設に率先導入
- ② 個人住宅への太陽光発電システム設置支援
- ③ 新エネルギーの導入、利用
- ④ バイオマスエネルギーの導入、利用

(3) 自動車から排出する二酸化炭素の削減

- ① アイドリングストップなどのエコドライブ促進
- ② 京阪神等遠隔地への公共交通機関利用促進
- ③ 低公害車・低燃費車購入
- ④ 保有車両の適正点検
- ⑤ 共同輸配送など車の利用の合理化

(4) 省エネルギーの推進

- ① 省エネルギーを考えて施設・設備整備
- ② 省エネ器具購入
- ③ 使用しない電気機器は電源切断
- ④ 冷暖房温度を夏 28 度、冬 20 度に設定
- ⑤ 自動販売機の設置抑制検討

行動指針 13 に関する豊岡市の取組み

・ バイオマスエネルギーの導入・利用は行動指針 1 に記載

取組みの内容	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	備考
市施設への太陽光発電設置数(箇所)	1	5	3	28	2	3	5	1	1	エコパル推進課
〃 設置量 (kw)	4.80	17.71	8.40	399.70	23.76	695.22	350	5.5	1,123	
住宅用太陽光発電設置補助件数 (件)	23	34	66	73	78	88	78	30	29	〃
〃 設置量 (kw)	87.68	121.16	254.41	301.40	350.53	407.65	346.88	138.41	147.19	
〃 補助金額 (万円)	412	586	1,199	1,288	1,449	1,191	1,003	335	341	〃
アイドリングストップ啓発回数 (回)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	生活環境課
但馬空港飛行機利用助成人数 (人)	11,508	11,292	13,007	12,582	12,134	10,387	12,367	12,457	11,376	都市整備課
〃 助成金 (万円)	6,515	6,872	6,468	5,963	5,749	5,019	5,819	6,046	5,711	〃
低公害車・低燃費車購入台数 (台)	27	11	3							総務課
公用車 低公害車・低燃費車割合 (%)		49.4	53.8	57.7	64.0	62.5	70.5	70.0	68.7	〃
省エネ器具購入数 (件)	27	11	34	37	17	11	13	12	19	〃
市の施設のCO2削減 (%)				5.10	8.04	8.44	9.76	12.91	14.51	〃
校庭芝生化事業の実施 (校庭)			7	14	9	9	5	2	0	教育総務課
校庭芝生化事業の実施 (㎡)			15,880	32,220	29,880	28,440	15,520	3,650	0	〃

行動指針 14 公害を防止します（大気汚染、騒音、悪臭、振動、土壌汚染、光害）

(1) 大気汚染

- ①大気汚染物質の発生防止指導、啓発
- ②廃棄物等の野焼き防止指導、啓発
- ③公共交通機関利用促進
- ④粉塵の発生防止指導、啓発
- ⑤アイドリングストップなどエコドライブ推進

(2) 騒音・振動の防止

- ①基準を超える騒音、振動等の発生防止指導、啓発
- ②保有車両の適正点検、整備

(3) 悪臭の防止

- ①悪臭の発生防止指導、啓発
- ②家畜ふん尿等の適正処理指導、啓発

(4) 地盤沈下の防止

地下水の利用抑制促進

(5) 工業等における適切な事業活動の推進

- ①公害発生防止の監視、指導、啓発
- ②公害防止協定締結による公害未然防止
- ③水質汚染・土壌汚染調査の定期的な実施、公表

(6) 有害化学物質の適正な管理

有害化学物質の適正管理指導

(7) 光害の低減

光害の低減検討

行動指針 14 に関する豊岡市の取組み

取組みの内容	H 1 9	H 2 0	H 2 1	H 2 2	H 2 3	H 2 4	H 2 5	H 2 6	H 2 7	備考
大気汚染の苦情受理件数 (件)	6	6	9	9	5	15	5	11	20	生活環境課
JR豊岡市民号利用者数 (人)	208	147	142	107	75					都市整備課
市街地循環バス(コバス)利用者数 (人)	37,257	37,688	40,744	47,175	47,796	48,216	47,438	50,395	51,066	〃
市営バス(イナカー)利用者数 (人)		51,729	93,956	81,736	77,815	79,065	74,543	59,496	58,102	〃
市職員「e通勤」実施者数 (人)		49	529	459	449	438	419	417	405	〃
豊岡ノーマイカーデー参加者数 (人)						1,181	2,133	1,415	1,697	〃
騒音・振動等特定施設届出施設数 (施設)	50	41	16	33	54	25	28	28	43	生活環境課
特定建設作業の届出件数 (件)	717	644	619	511	549	528	636	520	395	〃
騒音・振動の苦情受理件数 (件)	5	6	6	4	5	3	5	1	5	〃
悪臭の苦情受理件数 (件)	6	5	8	9	6	8	4	7	12	〃
水質・土壌汚染苦情受理件数 (件)	20	20	15	13	16	7	1	4	4	〃

第5部 前年度環境審議会意見の反映状況 (市の取り組み)

■環境審議会意見の反映

前年度の環境報告書で示された環境審議会の意見を、市がどのように施策に反映させたかを整理しています。

目標像 01 「里山」

■事業所等の施設の更新時期に合わせたペレットストーブ・ボイラーの設置の働きかけや住宅を新築するタイミングに合わせた住宅用ペレットストーブ・薪ボイラーの設置の啓発について

■ペレットの消費を増やすため、広域的な供給の必要性について

【農林水産課】

- ・現在のところ市が管理する施設への設置は完了しておりますが、今後の設置普及につきましては、他の公共機関や民間事業者、家庭用などへの推進を検討し、ペレットの広域的な供給も今後検討してまいります。

【エコバレー推進課】

- ・木質ペレットや薪のストーブ、ボイラーの購入に補助金を交付しています。ペレットストーブ・ボイラーは、本体購入費の2分の1以内（上限額 20 万円）、薪ストーブ・ボイラーは、本体購入費排気設備、付属品および設置工事費の2分の1以内（上限額 20 万円）の補助金を交付しています。補助金交付件数は、合わせて 22 件です。

目標像 02 「田んぼ」

■コウノトリ育むお米の販売促進と野菜栽培などに関する取り組みの周知について

【農林水産課】

- ・平成 27 年産コウノトリ育む農法の市内作付面積は 329.3ha へと広がり、同農法で栽培されたコウノトリ育むお米の約 6 割が J A たじまに集荷され、全国の都市部消費者に高値で購入いただき、概ね全量が完売されています。
今後も同米の特徴である「生物多様性への貢献」等をしっかり PR し、市場経済に認められた真のブランド米として推進し、持続可能な強い豊岡農業の確立を目指して取り組みを進めてまいります。
- ・水稻以外の野菜、果樹等のブランド化を進める取り組みとして、「コウノトリの舞農産物認定制度」を平成 15 年度より推進しています。
この制度は、慣行基準より農薬や化学肥料の使用を 1/2 以下で取り組む「ひょうご安心ブランド」に加え、栽培土壌の分析を義務化し、より厳しい基準で栽培することにより、安心安全な農産物の生産と地域環境の保全を目指しています。
平成 27 年度末の市内栽培面積は 622.2ha、54 団体の生産者に取り組んでいただいております。
今後も関係機関と連携し、市内はもとより関西圏の多くの消費者に購入いただけるよう取り組んでまいります。

目標像 03 「川」

■子どもたちが川に親しむため、地域の方が川での生きもの調査などを実施できるようなサポートについて

【コウノトリ共生課】

- ・「生きもの調査」を始め、「出張！田んぼの学校」、「コウノトリ KIDS クラブ」などの実施はもちろん、「戸島湿地まつり」、「加陽湿地まつり」及び「田結わかめまつり」など地元が行うイベントにも積極的に参加し、取り組みの PR をしたり、サポートを行っています。

目標像 04 「海辺」

■ウォーキングイベントなどの際にウォーキングだけでなく、一緒にごみを拾って歩くなどを市民へ意識づけることについて

【健康増進課】

- ・市が積極的に進めている「歩いて暮らすまちづくり」の中で、例えばウォーキングにあわせてごみを拾ってみたり、各地で行われている「スポーツごみ拾い」をスポーツ振興策の一環として実施してみることも、ごみのない海辺づくりに貢献できるように思います。

【生活環境課】

- ・豊岡市環境衛生推進協議会や円山川を美しくする協議会の主催するパトロールに市も参加することで、流域のごみの不法投棄防止に取り組んでいます。
また、海岸清掃ボランティアの活動の広がりにより、上流域にも下流域のごみ問題への理解が徐々に広がってきています。
ただ、大雨や台風などの際の大量ごみについては、その発生を止めることはとても困難と考える。市としては、その大量ごみを速やかに撤去できるよう、国・県に働きかけていきます。

■区で行った草刈りの草が下流に流れていく問題に対して、各区へ処理するよう指導・啓発することやインセンティブの必要性について

【生活環境課】

- ・平成27年6月2日に円山川を美しくする協議会主催の不法投棄取締合同パトロールに生活環境課ならびに各振興局市民福祉課の職員も参加し、その後平成27年6月17日にその反省会にも参加しました。また、平成27年11月13日の豊岡市環境衛生推進協議会主催の環境(不法投棄)パトロールにも生活環境課、各支所市民福祉係、ならびに都市整備部の職員も参加し、円山川流域のごみの不法投棄防止を啓発しました。

目標像 05 「祭り・行事」

■子どもたちに祭りや行事を行うことの意味や楽しさを伝えることの大切さについて

【コミュニティ政策課】

地区公民館では、地域の協力のもと、地域の祭りや行事を楽しむことができる教室や講座などを実施しています。

平成27年度実施状況

<豊岡地区公民館>

- ・6月9日～7月31日 柳まつりこどもおはやし教室
13回 延べ483名(小学生以下189名)
- ・8月1日 柳まつり 神輿の巡行 51名(小学生以下17名)

<新田地区公民館>

- ・7月19日 六方川探検隊&夏の生き物観察会(六方川木内橋上流広場)
延べ92名(小学生・一般 主催:六方川を考える会)
- ・10月17日 六方川探検隊&秋の生き物観察会(中谷農事組合広場)
延べ28名(小学生・一般)
- ・3月6日 六方川探検隊&冬の生き物観察会(河谷営農組合広場)
延べ42名(小学生・一般)

<奈佐地区公民館>

- ・7月5日、8月10日、8月17日、8月24日 奈佐節保存教室(奈佐節クラブ)
4回 延べ209名(小学生数不明)

<中竹野地区公民館>

- ・10月11日 轟地区こどもだんじり 延べ32名（小学生、小学校就学前の乳幼児）

<竹野南地区公民館>

- ・8月23日 変装盆おどり大会 延べ200名程度（小学生以下）
- ・9月5日 竹野町小唄の踊り 延べ13名（小学生以下）
- ・1月7日 正月遊びだよ 延べ20名（小学生以下）

目標像 06 「コウノトリ」

■コウノトリ野生復帰の意義などを市と市民が話す場の創出について

【コウノトリ共生課】

- ・コウノトリの生息を支える環境整備を進めるとともに、コウノトリ野生復帰の検証結果や「国際かいぎ」での議論を踏まえて、今後の戦略を描き、市民、関係機関との連携のもとにコウノトリを核とした地域づくりをさらに進めていきます。また、内なる普及啓発を強化しながら外部へも積極的に発信し、地域振興へと結びつけます。
- ・地元主導の関連イベントなどに積極的に参加し、その運営をサポートする中で、対話や理解が深まり、徐々に信頼関係を築いています。

■アメリカザリガニやブラックバス、ミシシippアカミミガメなど、外来種の駆除などの取り組みについて

【コウノトリ共生課】

- ・「コウノトリ KIDS クラブ」や「戸島湿地まつり」などのメニューやイベントの一つとして、アメリカザリガニ釣りなどを催し、その中で PR や啓発をはかっています。

目標像 07 「ごみ」

■ごみ減量を市民に意識づけるため、地道な啓発活動について

【生活環境課】

- ・平成 27 年度のごみ量は、前年度に比べ家庭系のごみは約 1.4%減少しましたが、直接搬入ごみが約 4.3%増加したため総量で 1.3%増加しました。6 分別から 9 分別に変わる 28 年度に向け、さらなる適正なごみ処理を行います。

■リサイクルの啓発やリサイクル活動拠点の周知について

【生活環境課】

- ・平成 25・26 年度に実施した事業系ごみの減量と適正処理を呼びかけるキャンペーンにより、今まで家庭ごみとして出されていた事業系ごみが適正処理された結果、直接搬入ごみの増加に影響したものと考えます。今後、減量・再資源化の意識変化により、直接搬入量も減少するよう啓発を検討します。
- ・平成 28 年度の北但クリーンパークの稼働に向け、6 分別から 9 分別への変更を啓発すべく、豊岡総合高校インターアクトクラブの協力のもと啓発 DVD を作成し各区に配布するとともに、新分別冊子「家庭ごみの分別とリサイクルの手引き」を作成し各家庭に配布しました。また、希望のあった市内 4 4 の地区及び団体に説明会を行いました。なお、啓発 DVD と分別冊子の内容は市ホームページにも掲載しました。

目標像 08 「道草」

(特に対応なし)

目標像 09 「豊岡ブランド」

■豊岡で水揚げされた魚や豊岡で作られた野菜を知ってもらうため、市民への啓発について

【農林水産課】

- ・具体的な水産物の推進としましては、但馬漁協竹野支所で、のぼり旗や宣伝用マグネットシートを導入し、竹野で獲れた魚のPRに努めています。
- ・但馬漁協津居山支所においては、ハタハタやホタルイカの自動計量パック機や異物検査機の導入による生産性の向上と、販路拡大に向け努力されており、市としましてもこれらの取り組みに対し支援をしており、今後も更なる支援・提案をしてまいります。
- ・平成16年6月に、市内の農産物直売所で構成する市農産物直売所連絡協議会（事務局：県豊岡農業改良普及センター）が設立され、市内の直売所マップを作成・配布し、地元で獲れた野菜等の地産地消の取り組みを推進していきます。
豊岡農業改良普及センターにも働きかけ、より多くの市民の皆様によりPRできるよう取り組んでいきます。

目標像 10 「省エネ」

■地球温暖化防止や自然エネルギーの利用の推進、事業所や市民に対しての身近な省エネ行動の周知について

【エコバレー推進課】

- ・太陽光発電システムや、ペレット・薪ストーブの設置に対して補助金を設け、市HPや広報を通じて周知しています。
H27年度は、ペレット・薪ストーブの良さを体験できるイベントを行いました。
H28年度からは、太陽光発電システムに加え、住宅用定置型蓄電池システムの設置に対しても補助金を交付する予定です。
H27年度から健康ポイント制度に環境ポイントを統合し、省エネ等の環境行動に対してもポイントを付与しています。現在は健康増進課と協力し、健康・環境ポイント制度の普及啓発に取り組んでいます。
- ・H27年度に地球温暖化対策実行計画（区域施策編）を作成し、H28年4月に策定しました。
今後も普及啓発に力を入れていきます。

■ペレットストーブ、薪ストーブの利用促進について

【農林水産課】

- ・ペレット事業は、化石燃料の代替による地球温暖化の防止や、カーボンニュートラルでの循環型社会形成、地域経済の活性化、林業振興への貢献を目的とした事業でもあります。今後も、その公益目的と経済性のバランスについて検証を行い、引き続き利用促進を図ってまいりたいと考えます。

第6部 平成 27 年度の環境に関する取り組みについて 豊岡市環境審議会の意見

■環境審議会の意見

本報告書第2部から第5部までの内容に対し、環境審議会からの意見や感想をまとめています。

(1)「目標とする姿」ごとの取り組みについて

目標像 01 里山では山の幸もよみがえりました

有害獣対策については、捕獲専任班の取り組みにより、年間捕獲目標頭数を達成するなど、確実に成果は上がっています。引き続き、広域連携の強化を図るなど取り組みの継続が必要です。

柵で囲った植生保全ゾーン「ノアの方舟作戦」については、今後も引き続き、更なる取り組みを期待します。

住宅用・事業用ペレットストーブ、薪ストーブを普及させるための補助制度も徐々に浸透してきており、件数も伸びています。今後、農業用あるいは普及の進んでいない施設への周知、働きかけを期待します。

目標像 02 遊んでいる田んぼを見かけなくなりました

コウノトリ育む農法をシンボルに、「豊岡型環境創造型農業」は一定の面積を確保するようになりました。全耕作面積の過半数にすることを目標に、新たな栽培方策（ポット成苗）を導入するなどして、更なる普及拡大を図っています。今後も、慣行農法農業者への働きかけを期待します。また、学校給食で週3日はコウノトリ育むお米が使用され、定着しています。

地元有志の会による、放棄田を活用したビオトープづくりの取り組みもみられるようになりました。こういった動きを応援し、支援する補助メニューなどがあれば、積極的に周知することが必要ではないでしょうか。

目標像 03 あちこちの川で子どもたちが遊んでいます

様々な団体や地域、小学校などでも、子どもたちが川に親しむイベントや活動、生きもの調査などが行われており、ある程度根付いています。

一方で、不法投棄など解決の難しい問題が根強くあるのも現状ですが、監視活動などを地道に続けていくことが必要です。

目標像 04 ごみのない海辺では、子どもたちが「磯遊び」を楽しんでいます

様々な団体や地域、小中学校などによる、海や川の清掃などのボランティア活動は、市内各地で展開されており、今や市民活動として根付き、更なる広がりをみせています。

「歩いて暮らすまちづくり」の一環で促すウォーキングイベントの際など、ウォーキングだけをするのではなく、一緒にごみを拾って歩くなど、市民への意識づけもイベントに取り入れてはどうでしょうか。

目標像 05 子どもたちが地域の祭りや行事を楽しんでいます

地区公民館では、地域の協力のもと、地域の祭りや行事を楽しむことができる教室や講座などを実施しています。

それでも、地域によっては、子どもの数の減少や後継者不足により、伝統的な祭りや行事が開催できなくなっているところが出てきています。まずは、伝統行事の現状を把握し、例えばどんな支援をしているのか、どういう状況なのかを知る必要があるのではないのでしょうか。

目標像 06 コウノトリがすべての中学校区に住んでいます

コウノトリの放鳥が千葉県野田市や福井県越前市、更には韓国でも行われ、野生復帰の取り組みが各地に広がりつつあります。この状況の中、コウノトリ野生復帰の先駆的な自治体として「豊岡市生物多様性地域戦略」の更なる推進を期待します。

目標像 07 収集されるごみの量は、ピーク時に比べ25%減りました

目標は達成していますが、1人あたりのごみ排出量は微増傾向にあります。これは、人口減少に対し世帯数は増加していることと、小売店での過包装やパック入り食品の多用などが原因と考えられます。今後も市民の意識づけが重要であり、学校や地域などでの地道な啓発活動を継続して行うことが必要です。加えて、リサイクルの啓発やリサイクル活動の拠点を定期的に周知する必要があるように思います。

目標像 08 子どもが安心して道草をしながら帰ります

各学校区での「まちづくり防犯グループ」のボランティアの取組みにより、登下校時に子どもたちと地域の人々がつながり、交流が深まっています。

また、各小学校区では、ラジオ体操での顔見知り運動などの取組みが行われています。今後、これらの取組みがあらゆる方面に広がっていくことを期待します。

目標像 09 たくさんの豊岡ブランドが生まれ、市民みんなが使っています

「コウノトリ育むお米」については、国内はもとより、海外でも販売促進・PR活動が盛んに行われています。様々な機会を捉えての、今後より一層の販促・PRを期待します。

豊岡産のお米や野菜が学校給食で使用されていることについて、もっと内外に周知すべきではないでしょうか。

目標像 10 市民みんなが、省エネ行動を楽しみながら取り組んでいます

市街地循環バスなどもっとPRすべきだと思います。

“雪室”の実証実験など新しい自然エネルギーへの取組みを、もっと市民へも周知すべきではないでしょうか。

また、「省エネ行動を楽しみながら」の言葉のとおり、身近な省エネ行動を市民や事業所に対して引き続き周知徹底を図るような、具体的な取組みも必要ではないでしょうか。

(2)まとめ

環境基本計画の推進 9 年目の評価は、10 項目のうち 4 項目（「01」「04」「05」「07」）が「もっとがんばろう」でした。

「01」「04」「07」について、各種の市民団体・事業者・行政は地道な活動をつづけていますが、評価の改善に向けては、地域コミュニティとの協働を強化していくことが大切だと考えます（豊岡市では、地区公民館の区域を基本に「新しい地域コミュニティ」を平成 29 年度から、全市で立ち上げる施策が進行中）。市民団体・事業者・行政の活動が地域コミュニティと深く結びついていると、各地の個別性を踏まえたうえで、地元根ざした持続的な取組みが可能となるように思います。もちろん地域コミュニティのなかには、「05」に見られるように、伝統行事が開催できなくなるなど、弱体化しているところもあります。このような場合には、地域コミュニティどうしの連携や市民団体・事業者による支援が、弱体化への対処法になるように思います。

本計画が掲げる目標とする姿の実現には、市民・事業者・行政という取組み主体が、地域のコミュニティと協働する仕組みを形成できるかどうか、ますます重要になります。

環境審議会では、現在の「環境基本計画」（平成 19 年度～平成 28 年度）の後継計画として「第 2 次豊岡市環境基本計画」の策定に向けた議論を行っています。そのなかで環境審議会の役割について、次のような意見がでました。それは、前年度の各主体の取組み状況のチェックだけではなく、豊岡市の環境施策に対して積極的に提言し関与していくべきだ、というものです。この意見をふまえて環境審議会は、本計画の残りの期間におこなう調査審議と第 2 次計画の策定等に関して、これまで以上に尽力いたします。

平成 28 年 10 月

豊岡市環境審議会	会 長	山室 敦嗣
	副会長	雀部 真理
	委 員	内海 京子・太田垣哲男・太田垣秀典
		岡崎 典子・日下部昌男・毛戸 勝
		菅村 定昌・土川 忠浩・寺田 正文
		橋本 道江・眞野 豊・和田 芳文
		與田 恭子（～8月23日）
佐伯 雅代（8月24日～）		

【お願い】

豊岡市環境報告書は、毎年公表するものです。

次年度以降より充実した報告書になるよう、みなさんのご意見・ご感想や、ご提案・
取組み事例の情報などをお寄せください。

豊岡市コウノトリ共生部コウノトリ共生課

住 所：〒668 - 8666 豊岡市中央町2番4号

電 話 番 号：21-9017（直）

F A X 番 号：24-7801

E - m a i l：kounotorikyousei@city.toyooka.lg.jp

H P 検 索：